

「NEWSな濟生人」
コロナ禍で
子どもの近視が加速

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1123



1

January 2023

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



暗雲を吹き飛ばす

毎年1月号は、今年の予測を述べている。昨年は、「新型コロナは、いずれ収束に向かうだろう。その時期は、年内（令和4年）だと期待する。」と書いた。方向的には正しかったが、収束の時期はもう少し先になる。しかし、ワクチン接種率や感染者の増加により集団免疫率は高くなった。行政、医療機関、企業、国民等の感染対策も整って

動を活発化するウイズコロナの時代になった。だからと言って、私たちが直面する社会に課題がなくなったわけではない。むしろこれまで経験したことのない難題に直面するのが今年である。主なものを列挙していこう。

私が最も心配することは、社会的に注目されないが、第1に日常的に必要とする物やサービスが円滑に得られなくなることである。日本人は、豊かな社会に浸ってきた。家の中には物があふれ、必要な物は、ネットで容易に入手できる。しかし、海外では政情の不安定化や労働力不足などで生産能力が低下している。日本を含め特定の国への輸出禁止措置を一方的に取る国も出る。このため海外に依存していた工場生産や国民生活の必需品の中には、入手困難なものが発生する。

このほかたくさんの難題があるが、正月から暗い話ばかりになってしまふ。対策はないのだろうか。基本的に私たちは、放漫な社会に慣れたライフスタイルを変える必要がある。これは人としては幸せな状態であるし、地球環境のためにも望ましいことである。

第2の難題は、社会の不公平感、財政や税制で適切な対策が講じられなければ、前述の事情によって一層拡大して行く。社会の分断・分裂が進行して行く。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。



熊本、松山から「愛」をお届けします！

熊本濟生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、濟生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。熊本・濟生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、濟生会のホームページ上で営業中です。商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー（左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ）
♥ギフトボックス（クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ）
◆くまドレーズ（くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ）
◆元祖クッキー（片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気）

濟生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



濟生

SAISEI

CONTENTS
JANUARY, 2023

NEWSな濟生人
コロナ禍で子どもの近視が加速 06
香川県済生会病院 眼科部長
杉田江妙子さん

済生会交差点
《脳卒中治療》日本海側初のSCU。「脳卒中は怖くない！歩いて帰る！」が合言葉／《最先端のデイサービス》脳と体に働きかけるリハビリで、笑顔輝く暮らしをサポート／《知ってほしい、里親のこと》社会で子どもを育てるために、里親に寄り添い、共に歩む／《患者本位の支援の輪》4市をまたいだネットワークで、困難事例も総合的に支援 10

この人 田中俊介 26

口福にっぽん 吉井省一 28

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 30

TOPICS 32

大雑報 67



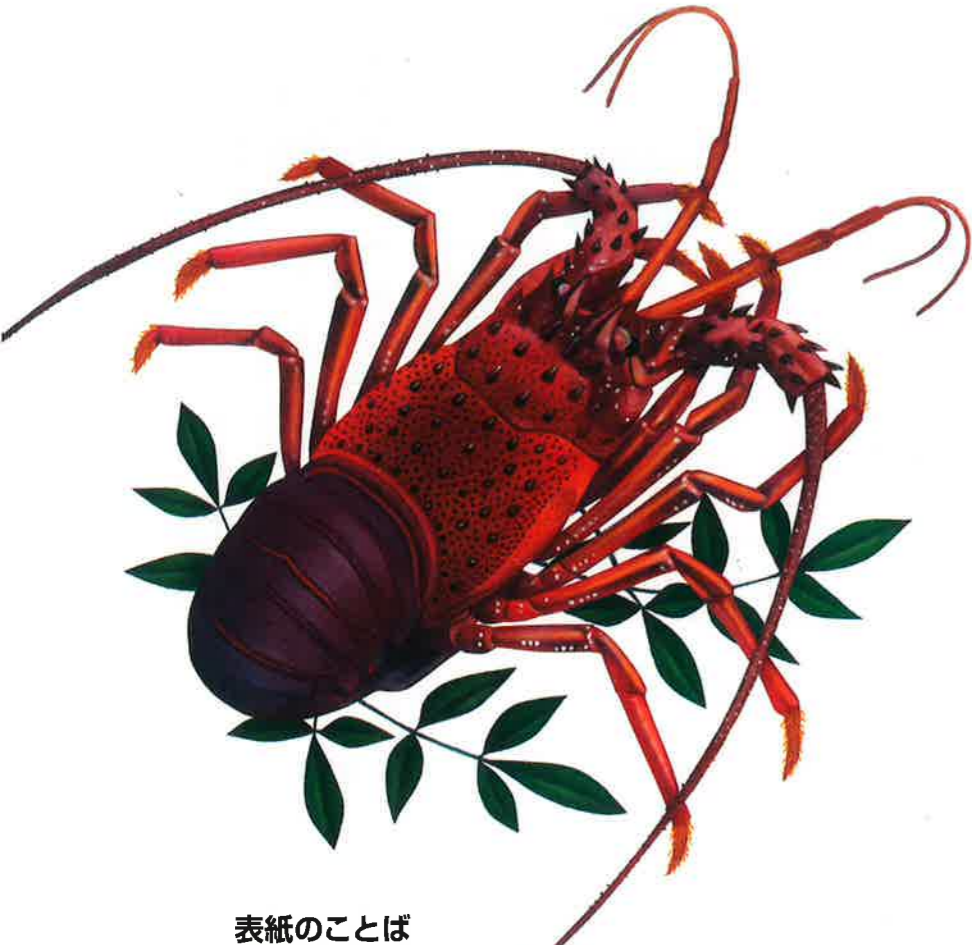
巻頭コラム 済生会の不易流行論 暗雲を吹き飛ばす 理事長 炭谷 茂	03
1月のたよりが聞こえる——イセエビ 表紙のことば 久保田眞由美	05
カレンダーなでしこ写真 入選のことば	18
ソーシャルインクルージョン	20

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

1月のたよりが聞こえる イセエビ

千葉 葉島の房総半島から九州沿岸に分布し、とりわけ伊勢地方(三重県)は一大産地。伊勢神宮のおひざ元でもあり、伊勢海老と漢字で書くと、いかにも縁起がよさそうだ。もっとも名前の由来には伊勢特産のほかに諸説ある。磯にすむのでイソエビから、あるいは姿が鎧をまとった「威勢のいい」武士を想起させるから、など。確かに、料理法の一つの「具足煮」は、イセエビを殻のまま輪切りにして煮る豪快な汁物だ。具足とは武士がつける甲冑のこと。生息しているのは外洋に面した浅い岩場やサンゴ礁。普段、日中は岩穴の中に潜んで夜、貝やウニなどの小動物を捕食する。繁殖期になると、ゾロゾロと数十匹で行列をつくって繁殖場へ向かうことが知られている。そうなると天敵からは丸見え。行列の最後尾のほうから犠牲になっていくそう。戦場で撤退するとき、追ってくる敵を食い止める役目の「殿の武士」が多大な損傷をこうむることを彷彿とさせる。

イセエビの天敵は、タコやイシダイ、沿岸性のサメなど。特にタコはエビ・カニが好物で、大物のイセ



表紙のことば
今年は威勢よく始めましょう！

表紙イラスト 久保田眞由美 Mayumi Kubota

お正月、おせちやお飾りで目にされた方も多いかもしれません。赤い魔よけの鎧をつけた堂々とした姿、イセエビです。日本の歴史の中で武士の世は700年続きました。今でもイセエビの姿に甲冑を重ね、勇

ましさを感じるのはそのせいでしょうか。時は変わりましたが、それぞれに勝利を願う気持ちは今も同じです。2023年素晴らしい一年にするために威勢よく始めましょう。

エビは食い応えがある。この習性を利用するのがタコ脅し漁。岩場で潜り、竿の先にマダコをくくり付けて水中で振り、驚いて穴から出てきたイセエビを網ですくう伝統漁法だ。そんなイセエビが、タコの天敵であるウツボと共生していることがある。イセエビは守ってもらえるし、ウツボはイセエビをおとりにして寄

つてくるタコを狙える。鋭い歯を持つウツボでも、固い殻のイセエビより柔らかいタコがお気に召すらしい。エビ・タコ・ウツボの「三角関係」だが、ヒトは三つとも食べてしまう。あな、おそろしや！ さらに恐ろしいのは、ヒトは食料としてだけではなく、縁起物としてイセエビを飾ったりもする。鏡餅の上に載せれば、超豪華な正月飾りの出来上がりだ。(Y)

コロナ禍で子どもの近視が加速

5歳児の25%が裸眼視力1・0未満——昨年11月、文科省が気になる調査結果を発表。スマートフォンなどのデジタル機器の普及に伴って、子どもも大人も、視力の低下など目の健康被害が問題になっています。医療現場ではこの状況をどう受け止めているのでしょうか。解決の糸口を探しながら診療にあたっている、香川県済生会病院眼科部長の杉田江妙子さんに聞きました。
(香川県済生会病院 済生記者 西山汐里)

香川県済生会病院 眼科部長

杉田江妙子さん



西山 5歳児というまだまだ幼稚園児。その4人に1人が近視とは衝撃的ですな。
杉田 「令和3年度学校保健統計(確報値)」では、学年が上がるほど近視が増える傾向が明らかになりました。裸眼視力1・0未満の割合は、小学1年生は約4人に1人、小3で約3人に1人、小6では約半数とな

NEWSな済生人 Interview

っています。同省はこの事態を重く受け止めて、対策を検討しています。【図1参照】

西山 香川県ではどうですか？

杉田 当県では、文科大臣が指定した幼稚園と小中高149施設で5~17歳を対象に同調査を実施。視力1・0未満の割合が幼稚園児は29・4%で過去最高、小学生は36・9%(全国平均36・8%)で、ともに全国平均を上回っています。3歳児健診でも50人に1人が弱視と報告されています。

西山 当院の患者さんも同様でしょうか。
杉田 近視や弱視は多いです。遠視や乱視斜視のために、視力の発達が不十分な弱視の子どもの割合も増えています。

西山 近視と弱視の違いは？

杉田 裸眼の視力が低いのが弱視と誤解している人も少なくありませんが、一般的に弱視はメガネをかけても視力が1・0に届かない状態を指します。裸眼で0・1ぐらいしかなくても、メガネをかけて1・0以上であれば弱視ではありません。
西山 子どもの視力がここまで下がったのはなぜですか？

杉田 近視や弱視の発症には、遺伝的要因と環境的要因が関係しています。特に弱視は遺伝的要因の影響が大きいと考えられます。近視も、親が高度の近視だと子どもにもそのリスクがあります。

西山 一方の環境的要因とは？

杉田 例えば、スマホの見過ぎなどで子どもの視力が低下してきたところに、新型コロナウイルスの影響で拍車がかかっていると思います。

小1で4人に一人、小6は2人に一人が裸眼視力1・0未満



リハビリ庭園で。左は聞き手の西山さん

す。コロナ禍で外出する機会が減り、家でスマホを見る時間が増えたことも原因の一つといえるでしょう。

西山 杉田先生はKSB瀬戸内海放送「News Park KSB」とNHK高松放送局「ゆう6かがわ」の取材を受け、そう強調していました。

杉田 ものを近い距離で見続けていると、近視だけでなく内斜視につながる場合もあります。スマホの見過ぎが原因と考えられ

る「スマホ内斜視」も増えてきています。

西山 「スマホ内斜視」とは？

杉田 近くのものを見る時、左右の目は内側に寄っていきます。近くのものを見続けると、神経がけいれんを起こして目は内側に寄ったままになりやすく、これが内斜視の原因の一つです。また、外斜視の中でも、ものが二重に見える複視、まぶたが十分に開かない眼瞼下垂がある場合は、背後に脳動脈瘤などが潜んでいて命に関わる可能性

【図1】年齢別 裸眼視力1.0未満の者の割合



たかが近視と侮るなかれ

西山 近視・弱視はどのような治療を？

杉田 近視は眼鏡で矯正するのが一般的です。高度の近視リスクがある場合は、進行を遅らせるための薬や特殊なコンタクトレンズを使った治療も行ないます。弱視に対しても、眼鏡で矯正して鮮明な像を脳に送ることで視機能の発達を促します。

西山 どちらも眼鏡が基本ですか？

杉田 はい。ただし弱視の場合、視力の感受性は1歳半ぐらいがピークで、その後低下していきます。視機能が8~10歳までに発達しないと、それ以降の視力向上は期待

※新型コロナウイルス感染防止のため、当分の間、インタビューは当該施設の済生記者が務めます。また、写真撮影時のみマスクを外しています

スマホは30センチ以上離し
連続30分まで。
大人は加齢による
眼の衰えの
セルフチェックも



できなくなります。したがって、早期発見・治療が大切です。言葉をまだ話せない乳幼児が手や指で目を押すようなしぐさをしている時などは、もしかするとものが見えていないこともあります。ですから、子どもの行動を日ごろからよく観察することが大切です。

西山 内斜視の治療は？

杉田 まず、スマホやタブレットの使用を控えて目を休ませる必要があります。それから特殊な眼鏡で矯正する、12歳以上なら目の筋肉の動きを抑えるボトックス注射を打つなどの治療法もあります。眼鏡や薬で効果がでない場合は、手術を検討することもあります。複視や眼瞼下垂が見られる場合は、前述のような重大な病気が隠れているケースもあるので、すぐに脳神経外科を受診してください。



子どもたちに医療を身近に感じてもらう済生会フェア

西山 屋外で過ごすことがなぜ近視の予防になるのですか？

大人は
アイフレイル
に注意を

西山 近視が低年齢化しているとなると、医療側の体制整備も必要ではないですか？

杉田 そのとおりです。例えば生後1カ月から3歳までの乳幼児健診に眼科医が関われば、目の異常の早期発見につながると思います。

西山 もう一つ、スマホの長時間使用は別角度から見ると「依存」という問題も透けて見えます。



メディアの取材を通して子どもの視力低下の警鐘を鳴らす

広報誌でも積極的に情報を発信

西山 全国の児童・生徒に1人1台のPCと高速通信ネットワークを整備する、文科省のGIGAスクール構想（5年計画）が

杉田 スマホ依存症は精神科との連携が必要で、子どもの健康に関して眼科医が感じている懸念や危機感は、他の診療科の先生方も同じように持っておられると思います。眼科だけでなく、関連する診療科が垣根を越えて子どもの健康を守るしくみが必要です。

西山 とところで大人の目の健康の状況は？

【図2】アイフレイルの可能性

- 目が疲れやすくなった
- 夕方になると見えにくくなることもある
- 新聞や本を長時間読むことが少なくなった
- 食事の時にテーブルを汚すことがある
- 眼鏡をかけてもよく見えないと感じることが多くなった
- まぶしく感じやすい
- まばたきしないとはっきり見えないことがある
- まっすぐの線が波打って見えることがある
- 段差や階段が危ないと感じたことがある
- 信号や道路標識を見落とししたことがある

杉田 アイフレイルはご存じですか？

西山 フレイルは加齢とともに心身が弱って要介護になる一歩手前の状態だから……加齢で目が弱るということでしょうか。

杉田 正解です。目も加齢によって血管が脆くなったり、ピントの調節力が弱くなったりします。そこに糖尿病や高血圧などが加わると、視機能が低下してアイフレイルになります。アイフレイルは、車の運転や読書ができなくなるなど、日常生活が制限されてしまいます。さらに進行すると、転倒や骨折を起こしやすくなったり、外出の機会が減って認知機能が低下したりするリスクも大きくなります。

西山 どうしたら予防できますか？

杉田 目の異常を早期発見するためのセルフチェックをお勧めします。日本眼科啓発会議では、次の10項目のうち二つ以上に該当する場合はアイフレイルの可能性があると注意を呼びかけています。【図2参照】

西山 今後、眼科の治療もさらに進歩することが期待されますね。

杉田 再生医療に目を向ければ、現在iPS細胞を使って網膜色素変性症の治療が行なわれています。失明する病気でも、視力を維持できるようになるかもしれません。たとえ視力を失っても、目の代わりに脳でものを認識する治療法も研究が進んでいます。

【取材を終えて】

新型コロナウイルスが、人々の環境、そして子どもたちの目にまで影響を及ぼしているのは驚きでした。杉田先生が話していたとおり、小さい頃に目を検診する機会はい

2019年からスタートしています。子どもの目の健康を守る対策は待たなしですね。

杉田 たかが近視と安易に考えるのは危険です。成人してから、近視性黄斑症・網膜剥離・緑内障などの重大な病気を引き起こすこともあります。そのリスクを抑えるためにも、子どものうちから近視の進行を抑えることは大切です。

西山 子どもの近視予防の注意点は？

杉田 子どもたちの生活に目を向け、できることから改善してください。2歳まではスマホを見せず、小学生も1日1時間以内にするなど家庭で工夫してほしいです。

西山 スマホやタブレットが大好きな子どもに自覚を促すのは大変そうですね。

杉田 日本眼科医会がつくった、子ども向けの啓発アニメ「進む近視をなんとかしよう大作戦の巻」が参考になります。近視を防ぐため①目とスマホは30センチ以上離す②30分スマホを見たら20秒以上遠くを見る③屋外で1日2時間活動して近視の進行を抑える——の三つの作戦を示しています。同会公式YouTubeチャンネルで見られ、全国の眼科クリニックなどでは動画視聴用のアクセスクードを配布しています。

西山 勉強などで手元を注視する合間に、時折遠くを見るのが大事なんですね。

杉田 水晶体は近くのものを見ると膨らみ、遠くを見るとしぼみます。水晶体が膨らんだままだと近視の状態なので、遠くを見ることによってそれを和らげるわけです。

(西山汐里)

日本海側初のSCU

「脳卒中は怖くない！
歩いて帰る！」が合言葉



スタッフセンターからは、患者さんの様子が常に見られる

脳卒中治療

福井県済生会病院
脳神経外科部長・
脳卒中センター長
高島靖志

福井県済生会
病院は20
06年12月、
日本海側初
の本格的S
CU（脳卒
中集中治療室）
として「SCU

・脳卒中センター」を開
設、地域における脳卒中治療の
重要な役割を担っています。
その2年前の04年に脳神経内
科を開設し、脳神経外科と一つ
の診療科のようにコラボした診
療を開始。脳卒中に対して早期
の離床・リハビリテーションを
押し進め、よりよい治療を行な
う中で、05年に脳梗塞に対する
発症後3時間以内のtPA静注
療法（血栓溶解療法）が認可さ



れたことを受け、開設に至りま
した。

一次脳卒中センターとして 年間350人を診療

脳卒中センターは6床でスタ
ートし、10年4月の病棟改築で
9床に増床し、tPA静注療法
の適応が拡大され脳梗塞超急性
期血栓回収療法を開始。18年12
月の脳卒中・循環器病対策基本
法成立で、脳卒中・心筋梗塞の
予防や迅速・適切な治療体制整
備を推進し健康寿命を延ばす施
策が前進し、19年9月に日本脳
卒中学会の一次脳卒中センター
に認定されました。

超早期リハビリで 1日も早い回復目指す

「脳卒中は怖くない！ 歩いて
帰る！」が脳卒中センターのス
ローガン。24時間専任の医師が
常駐し、看護師・リハビリ専門
職・管理栄養士・薬剤師・MS
Wのチームで、1日も早い回復



「歩いて帰る！脳卒中治療」を実践するSCU・脳卒中センター

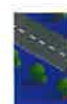
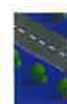


済生会 交差点

SAISEIKAI・JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。

を目指します。センターには広
いリハビリ室を備え、入院当日
からの超早期リハビリが可能。



リハビリ専門職のほか看護師も
積極的に関わり、休日も毎日訓
練し後遺症の軽減に努めていま
す。

福井県では、県内の医療機関
で統一した脳卒中連携バスがあ
り、当院も早期の自宅復帰を目
指して、回復期の病院などとシ
ームレスに連携。退院後の再発
予防治療でも地域の開業医と密
接に連携し、患者さんの健康を
末永く支えています。

脳卒中予防に注力 出張講座や動画制作も

脳卒中チームの成果は、毎春
の日本脳卒中学会などで発表。
特にリハビリスタッフが07年に
発表した「急性期脳卒中患者の
FIM（機能的自立度評価表）
を用いた予後予測」は、他に先
駆けた実践として多くの注目を
集め、その論文も広く引用され
ました。

理学療法士と歩行訓練をする患者さん



「脳の顕微鏡手術ってすごい」と疑似体験した子ども（2016年の済生会フェア）



「闘病する患者さんに勇気を届けたい」と、脳卒中チームが揃いのTシャツで走った（2017年福井マラソン）



日本脳卒中学会で毎年、SCUの多職種が成果を発表



院内で開催した脳卒中健康教室

最先端の デイサービス

北海道済生会
支部事務局
清水雅成



「これは体に良いですね」と、買い物リハビリ中の利用者さん



お会計もリハビリ。利用者さんが考えて支払います

感（脳の可塑性）を刺激し、年齢を重ねても脳を若々しく保てる点が目立っています。

**風呂も
リハビリ機器も
ない**

デイサービスと聞くと、食事や入浴、リハビリ機器での体力アップで通う場所を連想するかもしれませんが、でも、ライヴリーには風呂もリハビリ機器もなし。利用者さんがいきいき暮らせるように、日常生活に必要な動作を安全に行なう能力向上に特化しているからです。

日常プログラムの基本は、関節に着目して全身の動きとつながりを感じる運動「ファンタメソナルムーブメント」。最初にこれを行なって連続動作を調整しながら、関節の働きを意識したトレーニングやリズムを中心とした動きへと進めていき、幅広い動作への適応力を高めます。さらに利用者さんの身体状況に合わせて環境設定を変化させ、



「私たちライヴリースタッフが、いきいき楽しい暮らしをサポートします」

日常生活で起こり得る事柄に安全に対応するための能力向上を目指し、二人一組のペアワークなどを実施しています。

**利用者も地域も元気にする
「買い物リハビリ」**

大型商業施設内の立地を生かした「買い物リハビリテーション」も行なっています。館内ではイオン・しまむら・ニトリに



管理者の松田さんが利用者さんの反応を見ながら動きに変化をつける

飲食店やホームセンターなど幅広い業種の店舗が営業中。ここでムーブメント・プラクティスにより、買い物に必要な移動・動作や、人が行き交う環境への対応能力を高めます。買い物と対応能力を高め、日々の生活行動を通じ、自宅にある物の想起、品物の選別、金銭の支払い、店員とのコミュニケーションなどで認知機能を高められるプログラムです。



管理者の松田恭一さん（左）と筆者

脳と体に働きかけるリハビリで 笑顔輝く暮らしを サポート

最先端の脳・運動機能活性化理論ムーブメント・プラクティスを介護分野に取り入れた通所事業所「ウエルネスリハ デイサービスライヴリー」を、大型商業施設ウイングベイ小樽内の健康福祉ゾーン・済生会ビルに開設しました。高齢化が4割を超え、急傾斜地や冬は膝まで雪に埋まる

場所もある小樽市の課題「高齢者の健康増進・介護予防」が目的です。ムーブメント・プラクティスは、体の機能を最大限に引き出すプログラムで、痛み・けが・疲れやすさにつながらない動き方が体得できます。体を動かす楽しさの気づきを通



済生会ビレッジ



済生会ビレッジが入るウイングベイ小樽

じ、人・モノ・環境とのコミュニケーション能力を向上させ、継続することで創造力を育み

す。院内活動のほか、健診センターと連携して福井市周辺の健診受診者の職場や公民館などへも出向き、脳卒中教室を開催しています。院外活動に制限もあるコロナ禍も、一昨年のSCU・脳卒中センター開設15周年を記念して60分の特別番組「突然の脳卒中……その時にすべきこと」を制作。脳卒中の予防から脳卒中後の生活に関

福井済生会病院 SCU・脳卒中センター15周年記念特別番組

突然の脳卒中

…その時にすべきこと

～withコロナまさかの時に備えて～

「突然の脳卒中」は、脳卒中発症から約1分以内に適切な治療を受けることが重要です。

11月21日(日) 14:00 | 11月22日(月) 21:00 | 12月2日(金) 14:00 | 12月23日(日) 21:00

ケーブルテレビ放送のお知らせ



公民館の出前授業で、看護師が脳卒中早期発見のポイントを紹介

する気になる情報までを多職種が解説した動画は、福井・さかいケーブルテレビと嶺南ケーブルテレビで複数回放送され、現在は当院公式YouTubeチャンネルで公開中です。

昨年12月に開設16周年を迎えたSCU・脳卒中センターは、今後もさまざまな活動を通して地域とつながり、患者さんを支える連携の輪を広げていきます。

知ってほしい、里親のこと

〈静岡〉
川奈臨海学園
里親支援専門相談員
鈴木志穂

小樽のような高齢化が進む地域では、体の不安や外出手段がない「買い物難民」の課題解決や、地域経済活性化にもつながるこの取り組み。利用者さんには「ライヴリーを利用してから杖なしで買い物できるようなった」「好きなもの

社会で子どもを育てるために 里親に寄り添い、共に歩む

済生会唯一の児童養護施設
川奈臨海学園で、筆者は里

親支援専門相談員として働いています。さまざまな理由で親と

選んで買えるのが楽しい」と好評です。
ライヴリーの管理者・松田恭一さんは「買い物や館内・施設周辺でウォーキングができる大型商業施設を生かし、利用者さんの心身の健康増進や、さまざまな出来事に対応できる順応性と

創造性を、ムーブメント・プラクティスの実践で育んでいきたい」と述べています。
北海道済生会は地域住民が健康でいきいきと暮らせるように、医療・介護制度とそれらの制度外の事業を綿密な計画の下で連動させ、フードバンクや館内ウ

オーキングを済生会ビレッジで成功させています。その活動に共感した企業がウイニングベイ小樽内に事業所をオープンし、新たな企業誘致も進行中で、小樽のまちをもっと元気にする連携の輪が広がっています。

川奈臨海学園 済生会 恩賜財団 福祉法人



左から、川奈臨海学園の里親支援専門相談員の二階堂賀子さん、竹居昭子施設長、筆者



川奈臨海学園

暮らすことができない子どもを家庭に迎え入れ養育する里親に寄り添い、課題解決を一緒に考えるのが仕事です。
厚生労働省の統計では、2020年時点で保護者のいない児童、虐待されている児童など社会的養護が必要な子どもは全国に約4万2000人。出生率が右肩下がりの中、長く横ばいの状況です。養護を要する子どもたち（おおよそ1歳から原則18歳、最長で22歳まで）が生活す

る児童養護施設は約600施設あり、約2万3600人がそこで生活する一方、里親のもとで暮らす子どもは約6000人で



新生児の体重を感じるため人形を抱いて赤ちゃん体験する里親相談会の参加者



「行ってきます!」と学園から元気に登校する子どもたち



「今日のご飯もおいしいね」

育てにくい子どもを 里親任せにしない

里親には法的な親子関係がなく、①一定期間、自分の家庭で養育する「養育里親」②虐待・非行・障害などの理由で専門的援助が必要な子どもを養育する「専門里親」③「養子縁組を希望する里親」④実親が死亡した場合などに祖父母等が養育する「親族里親」——の4種類があります。いずれも児童養護施設と同様に、愛情をもって養育することが求められますが、課題も少なくありません。

例えば、虐待経験のある子の中には、発達障害・知的障害との狭間の状態「境界知能」で学習に困難を抱えたり、ADHD（注意欠如・多動性障害）を呈して衝動コントロールが難しく、ささいなことでもパニック行動を生じやすかったりする子もいるとの指摘もあります。

こうした「育てにくい子ども」も、児童養護施設では専門知識を有するスタッフが複数人でサポートしますが、里親は家庭内で解決しなければなりません。里親支援専門相談員の筆者

は、そうした里親に寄り添い支えています。

具体的には里親宅の家庭訪問や電話相談、里親が集まるサロンへの参加などを通じ、里親が話しやすく相談しやすい関係作りを大切に活動しています。

里親は 幸せの受け皿

民生委員定例会や学校関係者の集会などへも出向き、里親制度について地域に発信しています。回を重ねるにつれ質問をいただくことも増え、里親制度への理解や興味・関心の高まりを感じます。

そして昨年6月からは、里親制度の理解促進



会場でスタッフが打ち合わせ中

里親相談会で参加者の相談を聞く筆者（右）

里親相談会の会場

患者本位の 支援の輪

〈千葉〉
習志野病院
福祉相談室
東間広美



年間約40
00件の救急
搬送に対応す
る地域医療支
援病院の当院
は習志野市の
北端に位置し、
隣接する船橋
市・八千代市

4市をまたいだネットワークで 困難事例も 総合的に支援

習志野病院は2018年度に「生活困難者等支援ネットワークの会」を発足し、関係機関との連携促進や社会資源に関する情報交換などを目的にした年2回の会合を継続しています。



「介護保険の申請が分からない」という患者さんにパンフレットで説明するMSW（左）と入退院支援看護師（中央）

・千葉市からも救急患者が搬送されてきます。その人たちの治療費や退院後の療養に関する事、生活面の問題などは、患者支援センター

と個別相談の里親相談会を市中のショッピングセンターで毎月開催。地域で生活する里親も子ども、一般家庭と変わりなく安心して暮らせる社会になってほしいと願った活動です。筆者はこの中で「子どもを育てたいと希望する大人のための

制度ではなく、子どもが安心して幸せを感じるために大人が受け皿となる、子どものための制度です」と伝えています。里親月間の10月の相談会では、06年から里親委託を受けている、バルセロナオリンピック水泳金メダリスト岩崎恭子さんのお母

さんを「先輩里親」として招き、自身の子どもと里の子育ての違いなどを話してもらいました。「里親に興味はあっても、児童相談所や市役所への相談は敷居が高くて二の足を踏んでいた」という参加者など、12月までの7回の相談会に延べ42人が来場

自身の体力や生活スタイルに合わせた里親活動を希望する相談をきっかけに、里親の申請につながったケースもあります。この活動を通じ「子どもは家族だけで育てるのでなく、社会全体で育てていくことが大切」と地域全体に伝えていきます。

のMSWと入退院支援看護師が

対応。しかし、独居で身寄りなし、親子で社会から孤立した8050問題の家庭、経済面や虐待などの困難事例や、各市で社会資源が異なることが円滑な支援を難しくしていました。その解決には4市をまたいだ関係機関の連携が不可欠。そこでこの会を立ち上げたので

自治体・警察・消防など 46団体が集う

習志野市健康保健福祉部との情報交換会で、支援ネットワークの会の発足に理解を得た上で、初回会合は習志野市福祉事務所と実施。2回目からは他市の福祉事

9団体が参加した生活困難者等支援ネットワークの会（2019年・院内講堂）



務所・地域包括支援センター・生活困窮者自立支援事業所・警察・消防・企業局・民生委員・医療機関などにも声かけし集まっています。会合では当院の

MSWと医師が無低事業などの事例を紹介したり、グループミーティングで地域の課題を抽出したりしています。その後も支援の輪を広げるために関係各所を訪問して丁寧な説明を重ねています。会を重ねるごとに他市の参加機関も増え、現在は46団体で互いの機能や役割を生かしたよりよい支援のあり方を話し合っています。

に支援を開始できました。相談員が悩みを抱え込まず話し合える関係づくりを

この関係性を生かして、今後は「虐待」や「身寄りのない人」など課題ごとのネットワークづくりや、制度の狭間にいる生活困難者の支援体制づくりを進めたいです。各機関の相談員が独りで悩まず抱え込まずに、地域でいつでも気軽に相談し合える関係づくりを目指します。



ワールドカフェ方式のリラックスしたグループミーティングで、顔の見える関係づくりを進める

このネットワークが奏功した事例を紹介します。体動困難となり当院へ緊急入院した90歳男性は、同居する引きこもりの娘から、暴力や年金を使い込む、経済的な虐待を受けていることが分かりました。早速、地域包括支援センターへ虐待を通報し、退院後の行き先確保を高齢者支援課に頼み特養へ措置入所となりました。さらに自宅で娘と暮らす妻の安否確認の協力を警察に依頼。娘とは地域包括支援センターが訪問を重ねて信頼関係を築き精神科受診につなげました。いずれもネットワークの力で顔の見える関係づくりができていたので、迅速に協働し一斉

顔を
複数機関が一斉に動く



「身寄りのない世帯の支援」をテーマに意見交換



2023年
下期

CALENDAR ★ なでしこ写真

入選 のことば

済生会カレンダーのなでしこ写真は2年に1回募集しています。2023年のカレンダー写真は2021年6月に募集。66人の応募の中から、〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院・蛸原かおり氏のご家族・大越久雄さん（上期）と〈三重〉松阪総合病院の看護師・松本栄子さん（下期）の作品が選ばれました。

2023年
上期

この度は私が撮影したなでしこの写真を選んで頂き、喜びとともに感謝致します。本格的に写真に興味を持ったのは約20年前になりますが、日本の雄大な景観や自然の美しさに惹かれたからです。子どもの頃から山登りは日常で、森林に囲まれるのが大好きでした。数年前には富士登山にも挑戦しました。



〈三重〉松阪総合病院 看護部 松本栄子

★★★ 木漏れ日のナデシコ

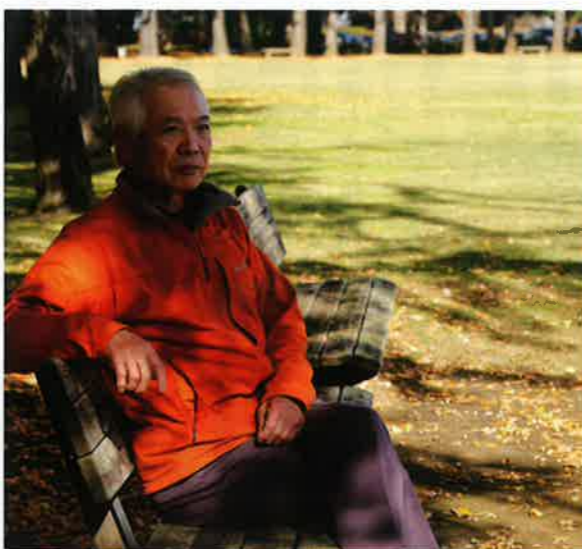
木立から太陽の日差しが漏れる光景は心や身体を癒やしてくれます。今回選んだ画像は、そんな木漏れ日の中で撮影した1枚です。済生会の紋章でもあるナデシコの花は約300種類ほどあって、その中でも特に惹かれたのは、繊細で凛とした「小倉仙翁」です。

今年度、定年を迎えますが、孫たちがナデシコのように多くの人に愛され、思いやりのある人に育ってくれるように願っています。これからも一期一会の撮影を楽しみにして、ナデシコに出会ったら、現在でも生き続けている済生の精神、紋章でもある済生会を目に浮かべることと思っています。

★★★ 癒やし

〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院 職員家族 大越久雄

この度は、たくさんのお応募作品の中から私の写真を選んでいただき、ありがとうございます。入選の通知を頂き驚きながらも本当に嬉しいです。娘から、龍ヶ崎済生会病院でカレンダー用「ナデシコ」写真の応募を紹介され、軽い気持ちで応募しました。お花屋さんでナデシコの苗木を購入、鉢に植え替え水やり肥料を与えて育て



ました。雨上がりの朝、ファインダーを覗き花びらの水滴の映り込みを意識しシャッターを切りました。娘、家族に入選を報告、「おじいちゃんやったね」と孫たちも大喜びです。家族みんなでカレンダーの仕上りを心待ちにしております。今回、私の撮った写真を見た方の心が癒やされたら幸いです。

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1696事業を展開します。

未成年の更生保護施設で 7回目の無料インフル予防接種



〈福岡〉飯塚嘉穂病院

飯塚嘉穂病院は12月3日、未成年専用の更生保護施設・田川ふれ愛義塾の入所者さん15人に無料のインフルエンザ予防接種を行いました。

本院がここでインフルエンザ予防接種を行なうのは通算7回目、この日は医師1人・看護師1人・薬剤師1人・MSW2

レールに乗せる出発点と感しました。全体会では、少年法改正で成

人年齢が18歳に引き下げられ親の同意なしに携帯電話の購入のほか、クレジットカードやロ

〈栃木〉宇都宮病院

つなサポで生理用品を無料配布 作新学院大学の朝ごはんカフェで

宇都宮市つながりサポート女性支援業（つなサポ）の連携団体で、学生服のリユース事業を手掛けるさくらや宇都宮店のす

めで12月7日、稲見一美地域連携課長と野澤未帆MSWは、人で訪問。注射器を前に子どもたちは、「痛そう」と緊張していましたが、スムーズに接種できました。

この施設からアルバイトに通い、社会に出て行く準備をしている彼らのために、病気の予防で側面支援していくことの重要性を改めて感じました。この施設の入所者さんの未来が少しでも明るく健全なものになるよう、今年も新しい出会いを楽しみに訪れたいと思います。

（地域医療連携室課長 濱崎妃沙子）

の食を支援するNPO法人こども応援なないろの母体でもあり、朝ごはんカフェを市内の複数の学校で開催。同大学でも市内パ



た生理用品セットを渡し、「悩みがあればいつでも気軽に相談してほしい」と呼びかけました。受け取った学生は「無料で生理用品をもらえると助かる」「今後も定期的に学校で生理用品を無料でもらえたらうれしい」と述べていました。ぜひまた参加して若い世代に向けても、つなサポをPRしていきたいと思っています。

（地域連携課 秋山綾香）



広がっていく事業など感じています。受け取った人が開封する際、笑顔になってくれたらと想像しながら作業しました」と、

地域連携室の久我朋美さん。次のなでしこスマイル便は近日中に予定しています。
（済生記者 村尾 愛）

全国済生会刑余者等支援推進協議会

東北少年院・青葉女子学園を視察

全国済生会刑余者等支援推進協議会は11月11日、仙台矯正管区の職員の協力の下、仙台市の東北少年院と青葉女子学園を視察。併せて仙台矯正管区で協議会全体会を開催し、構成員12人と済生会本部職員で、昨年4月

に改正された少年法に関する意見交換をしました。東北少年院は、電気工事や自動車整備など一部施設でしか取得できない資格も取得でき、出院後に資格を生かした就労で更生を支援する独特なシステムがある施設です。一方の青葉女子学園は女子の少年刑務所。縫製作業などで女性としての感性を醸成し更生を図る教育を実施しています。いずれの矯正教育も、再び正しい人生の

笑顔を届ける「なでしこスマイル便」 第一便はパンとスープ缶を提供



〈宮崎〉日向病院

日向病院では昨年9月から、フードバンク日向とフードドライブ事業を始めています。その事業名が院内募集の結果、「なでしこスマイル便」に決まりました。早速「なでしこスマイル便」の第一便として、院内の備蓄品のうち、賞味期限まで1カ月超あるパン21ケースとスープ缶29ケースを、11月18日に近隣の社会福祉協議会などへ、19日にはフードバンク日向に提供しま



した。フードバンク日向には3人の職員が訪問して納品した後、ボランティアスタッフと共に、提供先となる38世帯分の仕分け、梱包作業も行ないました。「一人が人を呼んで、つながりが



ある施設です。一方の青葉女子学園は女子の少年刑務所。縫製作業などで女性としての感性を醸成し更生を図る教育を実施しています。いずれの矯正教育も、再び正しい人生の

イオンモールを感染から守る 従業員に感染対策講習会



〈愛媛〉今治病院

今治病院は12月6日、イオンモール今治新都市で従業員対象の感染対策講習会を初開催しました。当院とイオンモール今治新都市は2021年7月に「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」の覚書を交わしており、その一環の活動です。当院の感染管理認定看護師・西村小百合さんが講師を務め、新型コロナウイルスとインフルエンザについてレクチャー。さらに手洗いチェッカーで洗い残しを確認

してもらいました。買い物客と接する従業員が多数参加し、感染対策の要点などを熱心にメモしていました。西村看護師が「手荒れは皮膚のバリア機能を破壊させ、菌の定着を起す」と伝えると、飲食店従業員が「消毒や手を洗う機会が多く、手が荒れているので教えてもらった対策を実践し手荒れも感染も防ぎたい」と反応。ほかの受講者も、今日の話を早速業務に生かしたいと言っていました。(済生記者 日野美華)

ブラジル人学校で無料健診 コロナ禍で3年ぶり104人に実施



滋賀県病院

滋賀県病院は11月15日と29日の2日間、東近江市のブラジル人学校・日本ラチーノ学院で、小・中学生104人に無料健康診断を実施しました。コロナ禍で2019年から学校を訪問できず、感染対策を徹底して3年ぶりに実施できました。ラチーノ学院は日本の学校と

地域の団体・企業・個人の支援で おとな・子ども食堂を毎月開催中

長和園では地域貢献活動として、高齢者と子育て世代が対象の「AOZORA おとな・子ども食堂」を月1回開催しています。コロナ禍のいまはお弁当のテイクアウト形式で子どもは

して認可を受けていないため、学校健康診断の対象外です。そこで当院は2012年度から、滋賀県国際課に協力いただき、なでしこプランの一環で同校に赴き健康診断を行なっています。

日本語が通じない生徒が多い中、通訳のできる教員に手伝っていただきスムーズに進行できました。子どもたちの健康を守り、必要があれば早期の受診につなげるため、今後もこの健康診断を継続していきます。

(社会福祉事業課 寺村小春)

〈新潟〉長和園

無料・大人は300円で販売し、11月24日は用意した70食すべてを提供できました。

この日は、地元・三条市内の生産者さん提供の大豆をおでんにして、新潟でよく食べるアールコルなどで渋を抜いた「さわし柿」のデザート、お土産としてお米も渡しました。子ども



提供)を配布しました。12月には、いがた子ども食堂研究会の「クリスマスお菓子



AOZORA
おとな・子ども食

日時 11月24日(木)
午後5:00~

場所 AOZORA 介護予防教室
250-0418 新潟県三条市
北山一丁目1番1号

料金 子ども 無料
おとな 300円

お申し込み・お申し込み先
〒952-8501 新潟県三条市
北山一丁目1番1号
AOZORA 介護予防教室
TEL:0257-22-1111

たちにはさらに、NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえを通して、煎茶50袋(本山製茶提供)とクリスマスベーパークラフトとんがり帽子50個(ポケモン子ども食堂応援隊

エアリズムマスクの配布で ユニクロとの社会貢献活動をPR

明和グループは、ユニクロから寄贈されたエアリズムマスクを10月26日にフードバンク松阪へ、同28日にもフードバンク伊勢へ届けました。両フードバンクには以前から食糧支援事業を行っており、

〈三重〉明和病院

なさんによって支えられているこの活動を今後も感染症に留意

少し前から衣類や日用品も需要があると聞いていました。そこで今回は、コロナ禍の生活必需品であるマスクを提供しました。担当者が早速試着し「さらさ



らしている」と着け心地のよさを実感。さらに「済生会とユニクロは接点があるんだね」と、社会貢献活動で協力していることもアピールできました。当院へコロナワクチン接種に

来た人にも、11月からユニクロのマスクを配布しています。ユニクロと済生会が社会貢献活動で協力していることを、これからも多くの人に周知していきます。(総務課 藤岡拓人)

しながら継続していきます。(済生記者 西川まゆみ)



すてきな写真を ありがとう!!

2023年も、たくさんの写真をお待ちしています



掲載写真を使ったオリジナルカレンダーを昨年中にお届け
大好評につき、今年もプレゼントを実施!!

【機関誌「済生」2022年に掲載された写真が主役の、施設オリジナルカレンダー】—1~11月号
に掲載された全写真の中から編集部が厳選。制作されたカレンダーは昨年中に当選した
支部・施設に配送され、編集部にはたくさんの喜びの音が届きました。大好評のため、
2023年も掲載写真をもとに、オリジナルカレンダー・プレゼントを実施!!
昨年にも増してすてきな原稿・写真をたくさん
お寄せください。お待ちしております。

更生保護施設入所者ら9人に インフルエンザ予防接種

〈大阪〉吹田病院



吹田病院は12月8日、なでしこプランの「野宿生活者等インフルエンザ予防接種事業」を実施し、更生保護施設愛正会に入所中の人と退所後にフォローアップを受けている人が計9人来院しました。
問診票の記入や検温はソーシャルワーカーがサポートし、接種前の問診は島俊英院長が対応、注射は東山深雪看護師長と丸山愛月看護師が行ないました。
順番待ちの間も入所者さん同士で体調のことなどを話す



和やかムードで、接種はスムーズに進行。「これで安心やわ、ありがとう」と、みなさんから

奈良病院

フードバンク奈良へ 災害用備蓄水 45ケースを寄付

奈良病院は12月2日、災害用備蓄水の入れ替えで、期限切れ間近の飲料水500ミリボトル24本入り38ケース、600ミリボトル24本入り7ケースをフードバンク奈良に寄付しました。
フードバンク奈良は2017年12月に発足。子ども食堂やひとり親家庭、社会福祉施設などへ未使用の食品などを提供している団体です。目に見える「困った」はもちろん、目に見えない「声」にも耳を傾け、社会のセーフティネットとして活動しています。



感謝の言葉をいただきました。
(福祉医療支援課
MSW 中村悠子)

生活困窮者支援の実務者が 3年ぶりに協議

京都済生会病院は11月15日、コロナ禍で中断していた生活困窮者支援実務者によるケース担当者会議を3年ぶりに当院で対

人取り残さない」ソーシャルインクルージョンの実現を目指し

ていきます。

(総務課 藤井貴義)

面開催しました。

この会議は、乙訓地域の行政・社会福祉協議会の相談員と、当院のMSWなど生活困窮者支援の実務者同士で、より具体的に情報交換や事例報告を行なう場です。



宮部剛実事務部長が済生会と新病院の紹介をした後、南本宜子福祉相談室長が無料低額診療事業となでしこプランを報告。地域の担当者からは、生活困窮者支援や生活福祉資金貸付制度、生活困窮者・団体に食品を提供するフードドライブなどの活動が紹介されました。
この地域の生活困窮者支援の活動や事例を知り、当院はどのような貢献ができるのかを考える多くのヒントが得られました。

(企画広報室長 松岡志穂)



Text: みやじまなおみ

Photos: 安友康博

Hair & Make-up: 奥山信次 (b.sun)

Styling: 中川原有 (CaNN)

向き合う役の数が増えるほど 自分という人間の厚みが増す

30歳を目前に、「役者として一から再スタートする」と決めた。昨年は大河ドラマに初出演。「大河はやっぱり特別。親孝行ができました！」と笑顔で語る。次に控える舞台『ケンジトシ』も気合いの入る作品だ。

「コロナ禍で2年以上延期されていた所属事務所の主催公演です。所属して初めて事務所の舞台に出演するので、この作品を終えてようやく事務所の一員になれる気がしています。それにプロデューサーでもある事務所の社長が毎日、稽古場で見ているので頑張らないと」とその稽古については、楽しさと怖さがあると言っ

たなか・しゅんすけ 1990年生まれ、愛知県出身。2017年、『ダブルミンツ』で映画初主演。以降、『恋のクレイジーロード』『デッドエンドの思い出』『恋するけども』『餓鬼が笑う』と立て続けに主演を務める。『ミッドナイトスワン』のトランスジェンダー役でも存在感を示した。近年の主な舞台出演作に『ホームレッスン』『銀河鉄道の父』『ピサロ』『転校生』など。昨年は、大河ドラマ『鎌倉殿の13人』に曾我五郎役で出演。

「共演者から刺激を受け、自分一人では気づかない、発見をする楽しさ、喜びがある一方、自分の表現はこれでいいのか？という悩みや迷いも出てくる。一度悩み始めると、家に帰ってもそのことで頭がいっぱいになってしまふんです。稽古期間中、スイッチがオンになったままのしんどさがあります」

それでも作品ごとに自分が一歩ずつ成長していると田中さん。「与えられた役がたとえ血も涙もない人間だったとしても、僕が拒絶したらその人物は成立しません。だから、何とかわかるうと必死に寄り添ううちに、また新しい発見がある。その経験が増えるほど、自分の人間的な厚みが増すように感じていますし、この座組なら、得られるものが大きいだろうなという期待感があります」



シス・カンパニー公演『ケンジトシ』

岩手山を望む大地から天空の星々へと、その創作の翼を広げる宮沢賢治（中村倫也）。彼の傍らには聡明で信仰篤き妹トシ（黒木華）の姿があった。トシは、純粋な心を軸にわが道を進む自由奔放な兄の宗教観のよき理解者であり、賢治の精神的な支えだったとも言われている。兄妹の濃密な会話から浮かび上がる生命の交感を描く。

■作: 北村想 ■演出: 栗山民也 ■出演: 中村倫也、黒木華、山崎一、田中俊介 ほか

《東京公演》2023年2月7日(火)～2月28日(火) シアタートラム

《大阪公演》2023年3月3日(金)～3月10日(金) サンケイホールブリーゼ

田中俊介

Shunsuke Tanaka

数々の映画、ドラマ、舞台で

鮮烈な存在感を放つ

田中俊介さん。

宮沢賢治と妹トシの

心の交流を描く

舞台『ケンジトシ』では、

兄妹の言動を追いかけながら

物語をけん引する役どころで出演。

舞台の楽しさと怖さ、

「演じる役が増えるほど、

人間として成長できる」

と語る心裏について

聞きました。



Vol. 152



口福につぼん

吉井省一

とで、ご紹介させていただきましよう。
 愛媛ブランド
 「ゆら鯛」の
 豊かな風味を塩で包む
 豊富な海の幸で知られる
 由良半島は、愛媛県の南西
 部に位置する風光明媚なと
 ころ。私も去年の夏の家族
 旅行で、



済生会の「病院・施設」がある
 県内の市町村

よいい・せいいち コピーライター・作詞家。老舗百貨店の食の通販誌では約30年にわたって執筆に携わり、全国各地を取材。試食した食品の数は1万点を超える。

令和5年、あけましておめでとございます。

最近、皆さんの周りで、何かおめでたい事はありましたか。結婚や出産、長寿、進学、就職など、人生の節目となるような大きなイベントだけでなく、日常でのちょっとしたうれしい出来事まで入れると、いろいろありそうですね。

そんなおめでたいシーンにぴったりな食べ物と言えば、何と云っても鯛。今回は愛媛のブランド鯛「ゆら鯛」を使った、見た目もダイナミックな塩釜焼き。



丁寧な下ごしらえの後、ミネラル豊富な天然海塩で包み成型、焼き上げる。食す際はこの塩製の「蒸し焼き器」を付属の木づちで砕く

おめでたいことがなくても、味の方は絶品ですので、この美味しさを「愛でたい」ということを

64 ゆら鯛の塩釜焼き 《宝水産》

愛媛県 南宇和郡 愛南町

松山から
 高知の四
 万十町ま
 で海沿い
 をドライブ
 ブしましたが、自然がたっぷり
 残った美しい風景が続く抜群の
 ロケーションでした。

サンゴが生息するほどきれいな海で、稚魚から水揚げまで一貫して育てられているのが、愛媛名物の「ゆら鯛」。外海の潮流の影響を受けにくい環境で養殖された真鯛で、そのピンク色の魚体は実に美しいものです。

「塩釜焼き」というのは、塩または塩と卵白を混ぜた「塩釜」で食材を包んで蒸し焼きにした料理のこと。日本の「塩釜焼き」のルーツは、豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に、玄界灘で獲れた

鯛を大坂の母親へ届ける際に、味を損なわないように塩で包んで焼いたところからとか。もともとは保存のためだったのです。しかし、この保存のための塩で鯛をまるごと包んでしまうことで、身がきゅつと引き締まり、脂肪分が程よく抜けて、真鯛ならではの旨みが凝縮されるのです。

木づちでコツコツ、 ぐめで鯛を食す

注文を受けてから、職人の手で一つひとつ丁寧に加工していくこの塩釜焼きには、木づちが



「ゆら鯛」は、外海の強い潮流の影響を受けず、町ぐるみで水質管理が行なわれている海域で育成されている

付いています。これで周りの塩を打ち砕いて中身の鯛をいただくわけですが、このやや大きなセレモニがお祝いの席などを一段と盛り上げてくれるのです。叩き方にも少々コツがあり、中央の骨に沿って3カ所程度に狙いを付けて表面を叩き、ひび割れた所から順に叩いていくときれいに塩がはがれていきます。塩が適度に鯛の身にしみているので、そのままでもいただけますが、電子レンジで温めると、身がさらにふっくらとして香ばしさも加わり、ひと際味わいが増します。パリパリした皮の下で、これぞ鯛というしつかりした身が、口でやさしくほぐけていく上品な食感と豊かな風味がたまりません。

ポン酢やレモンをかける、また違うきりつとした味わいを楽しめます。もちろん、お



ゆら鯛塩釜焼き(中) [約1kg・3~5人前]
 6,804円(税込・送料別)
 賞味期限……冷蔵8日間

お取り寄せ・お問い合わせは
 宝水産 〒798-3705 愛媛県南宇和郡愛南町家串1121
 TEL: 0895-70-6068 FAX: 0895-70-6061
 営業時間: 9:00 ~ 18:00
 ホームページ: www.yuradai.com



招福ウサギで贈る メッセージ



ウサギ・顔

1 折り紙の左右の辺を折る

2 上の辺を中心まで折る

3 図のように折っており目を付ける

4 指を入れて開くように折る

5 上の角を山折り

6 点線で折る

7 下の辺を折る

8 裏返して左右の角を折る

1.5cm

--- 山折り
--- 谷折り
↺ 裏返す

9 角を折る

10 裏返して顔を描く

ウサギ・体

1 1/2に切った折り紙の上の角を折る

2 下の辺を折り裏返す

3 折り返しており目を付ける

4 下の角を折る

5 点線で折る

6 下の角を山折り

ウサギ・手

1 1/8に切った折り紙の上の角を折る

2 上の角を折る

3 半分に折り、同じものもう一つ作る

招福カード

1 1/8に切った折り紙の下2cmを切り取る

2 招福と書いた紙を貼る

2cm

完成



顔・体・手・招福カードを貼り付けて完成。メッセージを入れたハートなどを飾ってもステキ!

【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に『春夏秋冬で楽しめる おりがみ壁飾り』など37冊。2011年から、小学校2年の教科書「こくご」(三省堂版)にも登場。「季節のイベント折り紙」(日東書院)など多数。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ
おりがみ協力: 株式会社トーヨー



〈大阪〉りんくうワークス



愛知県青い鳥医療療育センター



〈埼玉〉加須病院



〈静岡〉特養小鹿苑



済生会の職員や利用者さんがスポーツで輝きました。今年の干支はウサギ！皆さんにとって飛躍の年になりますように。

topics

藍野大学と包括連携協定 医療人材育成などを目指す

京都済生会病院

学長と当院の吉田憲正院長をはじめ、双方の関係者が出席しました。これまでも看護実習を受け入れるなど、同大学とは相互に協

京都済生会病院は11月7日、医療系大学の藍野大学（大阪府茨木市）と医療人材の育成と医療の発展に寄与することを目的に包括連携協定を締結。調印式には、藍野大学の学長と当院の吉田憲正院長をはじめ、双方の関係者が出席しました。これまでも看護実習を受け入れるなど、同大学とは相互に協



（企画広報室長 松岡志穂）

★大学と病院の相互協力がさらに発展すると、どんな化学反応が起きるのか楽しみです。記事を楽しみにしています。

熊本病院

検体を自動で運ぶロボット導入「かわいい」と評判

熊本病院は11月21日、検体を運搬する「自動搬送ロボット」を導入しました。

当院は別棟に外来がん治療センターがあり、多くの患者さんは治療開始前にここで採血・採尿を実施。その検体はこれまで

を改めて知りました。

筆者は①クラスター発生時の初動②職員確保のための応援職員要請③全室隔離時の入居者の様子④職員の役割分担⑤クラスター期間中の課題と要因分析⑥

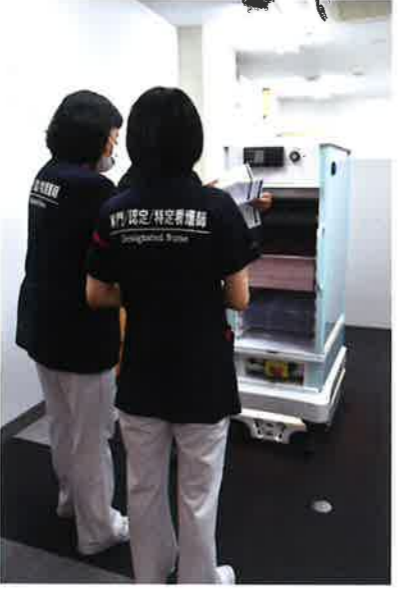


かかり増し経費——を報告。そして「日常的に職員個々が感染予防意識を高く持ち、有事には施設一丸の対応が必要」と、経験者の立場から伝えました。

質疑応答では、職員の役割分担や多床室でのゾーニングについて聞かれるなど、活発な意見交換ができた会でした。

（介護主査 会田るみ）

看護師やケアアシスタントが病院本館病院本館の検体検査室まで、往復15分ほどかかる空中通路経由で1日30回以上も運搬していました。今後はこの運搬作業が自動搬送ロボットに置き換わります。自動搬送ロボットは人や障害物をセンサーで感知して、避けたり止まったりしながらゆっくり



と進みます。音楽を流しながら走るの「かわいくて癒やされる」と、早くも患者さんの評判になっています。

（済生記者 東賢剛）

〈大阪〉千里病院

メディカルラリー3年ぶり 当院は6位と健闘

千里病院は11月5日、大阪大



学吹田キャンパスで第19回千里メディカルラリー「MIF 阪大」を3年ぶりに開催しました。メディカルラリーは、医療チームが特殊メイクを施した模擬患者に対し、的確な診断・治療を制限時間内にどれだけ実施できるかを競う技能コンテスト。救命救急専門の医師・看護師・救急救命士が6〜10人でチームを結成し、指定場所へ出動して行なう診察や止血処置・人工呼吸・薬剤投与などの行為をジャ

介護現場コロナ対策研修でクラスターの経験を語る

（済生記者 秋山みゆき）

ながまち荘は、11月7日（庄内地区）と14日（村山地方）に行なわれた「令和4年度介護施設における新型コロナウイルス対策研修」で、当荘が経験したコロナクラスターの経過を報告しました。

風評被害も懸念しましたが、地域の医療・福祉・行政と広く情報共有しネットワークを築くことが必要と考え、主催者の山形県地域包括支援センター等協議会の要請を承諾。いずれも定員80人を上回る100人ほどが聴講し、介護施設で働く職員の感染予防対策への関心の高さ

福岡総合病院

DXで新しい価値を創造
戦略チームが改革をけん引

福岡総合病院は2021年4月に事務職員を中心としたDX（デジタルトランスフォーメーション）戦略チームを設置、デジタル技術を活用した院内改革を進めています。少子高齢化の影響で人手不足が懸念される中、業務効率化は病院経営の重



要なテーマです。

真つ先に着手したのはペーパーレスとハンコレス。決済書類や議事録など多くの書類は、ワークフローを活用したグループウェア上の決済に切り替え、伝達速度の向上を目指しました。ほかにも、職員間のビジネスチャットツール導入や、外来患者さんへの説明を動画化するなど、設立から一年半ほどで数々の業務フローを改善しました。

これらのデジタル化は手始めにすぎず、当チームでは将来的に組織風土を変革し、新しい価値を生み出すことを目指しています。業務効率化の一方で、医療の質や患者満足度の向上、勤務環境の改善、地域連携強化を実現するという思いで活動を続けていきます。

（済生記者 富永朋美）

〈宮崎〉日向病院

訓練中の真剣な眼差しが
市の広報誌の表紙を飾る

日向市や日向市東臼杵郡医師会が大王谷運動公園で11月13日に実施した総合防災訓練に、当院の林克裕院長と看護師6人、事務2人が参加しました。



訓練は南海トラフ大地震を想定。消防・警察・自衛隊や医療機関が参加し、災害発生後の情報伝達・救出・搬送訓練が行なわれました。当院はこの中で、林院長と看護師長、当院DMAT隊員を中心としたチームで、トリアージなどの実働訓練に臨み、関係機関との連携強化を図りました。

訓練後の全体講評では、「訓練で分かった課題や反省点を関係機関がそれぞれ持ち帰り、実際の災害に備え、役立てることが大切だ」と指摘されました。なお、救助訓練中の当院医療チームの真剣な眼差しをとらえた写真が、日向市の広報誌の表紙を飾りました。

（済生記者 村尾 愛）

東北初のモバイルクリニック
無医地区対策として期待

〈岩手〉北上済生会病院

北上済生会病院と北上市は11月15日、モバイルクリニックの実証実験をスタートしました。東北地方では初めて、全国でも5例目の試みです。

医療機器などを搭載した車両に看護師が同乗して患者の自宅付近を訪問、車両内のテレビ会議システムを通じて、病院にいる医師が患者をオンライン診察する仕組み。北上市では医療機関が中心部に集中し、高齢化が進む周辺部には診療所もない中で、患者さんの通院負担軽減の一手として期待されています。

実証実験の対象は診療所のない8地区に居住し、当院に通院する糖尿病や高血圧など慢性疾患の患者さん約70人。2月まで火・水・木曜に実施し、課題や成果を踏まえ、2023年度内の本格運用を目指します。同日の出発式で、高橋敏彦市



長は「医師不足で地区ごとに診療所を設けるのは難しいが、住民の要望に何とか応えたい」とコメント。一戸貞文院長も「オンラインでも診療の基本『見る、聞く』は可能、『触る』も同乗する看護師が補助してくれる。北上の地域医療のさらなる充実を期待している」と述べました。

（済生記者 掛川千恵子）

〈広島〉老健はまな荘
5回目のワクチン接種

オミクロン株BA4／BA5に対応した5回目の新型コロナウイルスワクチン接種を12月6日、入所者さんに実施しました。

接種対象は75～98歳の短期入所を含む53人。5回目ともなれば職員も慣れたもの。今まで2～3日かかっていた接種が1日で終わりました。

1週間前にインフルエンザワクチンを接種したこともあって、入所者さんの段取りもバッチリ。袖をまくって待つ人もいて、接種全体がとてもスムーズに進みました。

接種後の副反応も、微熱や局所の痛みが出た人が少しいただけで済み、現場職員もほっとし



ていました。

（済生記者 佐藤 聡）

〈奈良〉中和病院

病院は安全？
サイバーセキュリティ講習

奈良県警のサイバーセキュリティ講習会が11月18日に当院で開催され、さまざまな部署の職員30人ほどが参加しました。

講習では、全国各地で相次ぐ企業や病院を狙ったサイバー攻撃の現状について、事例を交え分かりやすく解説されました。そのほかのトピックとして①近年増加する「ランサムウェア」と呼ばれる身代金要求型のコンピュータウイルスによる被害

が医療業界でも数多く報告されている②病院内外のネットワークをつなぐVPN接続の脆弱性が狙われやすい③日常的に扱うメールで、なりすましや誤送信などによる情報漏えいが指摘されている――などが紹介されとても勉強になりました。

職員がサイバー攻撃の具体的対策を質問し、システムを常に最新の状態にしておくことや、攻撃の特徴を知り、違和感があれば見逃さないことが大切だと教授いただきました。多様に複雑化するサイバー攻撃の兆しは日常に潜んでいるのだと危機感を新たにする契機となりました。

（済生記者 窪田里奈）



静岡済生会総合病院
人間ドック健診施設
機能評価認定を受ける

当院健康管理センターは、日本人間ドック学会の「人間ドック



は86年に開始し、現在、年間1700人に利用いただいています。

同機能評価認定は長年の目標でした。コロナ禍の影響で、申し込みから2年がかりの受審となり、この間の準備や訪問審査が直前でもリポートに変更されるなどの事態の対応にも追われました。

今回は無事に認定された一方で、いくつかの課題も指摘されました。今後はそれらの改善に取り組み、より多くの方に安心して質の高い人間ドックを利用いただけるよう努めていきます。

(健康管理センター 木村葉子)

ク健診施設機能評価 Ver.4.0]を4月に受審し、7月7日付けで認定を受けました。

当センターは1964年に静岡県支部内で検診事業を開始したのが出発点。人間ドック

〈鹿児島〉川内病院
コロナ想定で初の災害訓練

川内病院は11月12日、2年ぶりの大規模災害訓練を職員だけの小規模で実施しました。

学んでいきたいと、多くの学生がレポートに記していました
(専任教員 青柳美香)

〈奈良〉中和病院
大宇陀高校から
真心縫い込んだケア帽子

奈良県立大宇陀高校から11月28日に、手作りの医療用ケア帽子を20個寄贈いただきました。がんの化学療法などで髪が抜けた患者さんのために、介護に重点を置いた教育が特徴のライ



平日の診療時間帯に、震度6強の地震が発生と想定。前半は各部署の初動要領の確認、被害状況の確認、病院診療の継続判断などの最新マニュアルを検証しました。

後半は、災害拠点病院として多数の負傷者を受け入れる訓練です。今回は初めて、新型コロナウイルスの有症状者や家族に感染者がいる負傷者もいると想定。対応時の装備、ゾーニング、トリアージの方法、検査方法、患者動線、搬送など全てにおいて従来の訓練とは異なり、戸惑う場面

フクリエイトコースの生徒が作製したもので、2016年から毎年届けてくれます。

ケア帽子には保冷用のポケットやマスクのひもを引っ掛けるボタンなど使い心地を考えた工夫が施され、一つひとつ手縫いで作られています。来院した生徒代表は「患者さんに心地よく使ってもらえるように、真心をこめて作りました」と思いを伝えてくれました。

受け取った中島祥介院長は「毎年継続するのは大変だが、ありがたく素晴らしいこと。ありがとうございます」とお礼の言葉を伝え感謝状を贈りました。
(済生記者 窪田里奈)

〈茨城〉常陸大宮済生会病院
ベトナム保健省医師団視察

茨城県来訪中のベトナム保健省の医師団6人が12月8日、地域医療の視察で来院しました。当院の小島正幸院長と国民健康保険美和診療所(常陸大宮市)の市毛博之医師が対応。当院の紹介のほか、へき地医療や遠隔医療の取り組みをプレゼンし、4階病棟の陰圧室やリハビリの現場を案内しました。

もありました。反省会ではたくさん課題が上げられ、今までにない有意義な訓練となりました。
(防災対策管理委員会 久木野周作)

〈栃木〉宇都宮病院
看護専門学校
障害者支援で多くの学び

第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」が10月29日から3日間開催され、本校の1年生43人が選手団サポーターのボランティアに参加しました。

障害者と初めて関わる学生も多く最初は戸惑う様子もありましたが、競技に挑む選手の姿を見たり、選手から声をかけられたりして姿勢が変わりました。「障害の壁を作っているのは私たちなのかもしれない」「関わりに正解はなく、自分が接したいと思う気持ちが大切だ」「何事も諦めず、継続した努力が結果になる」——この3日間ですう学んだと学生は言います。障害者に対する理解が深まり、自己の偏見にも気づくことができたこの体験を生かし、看護を

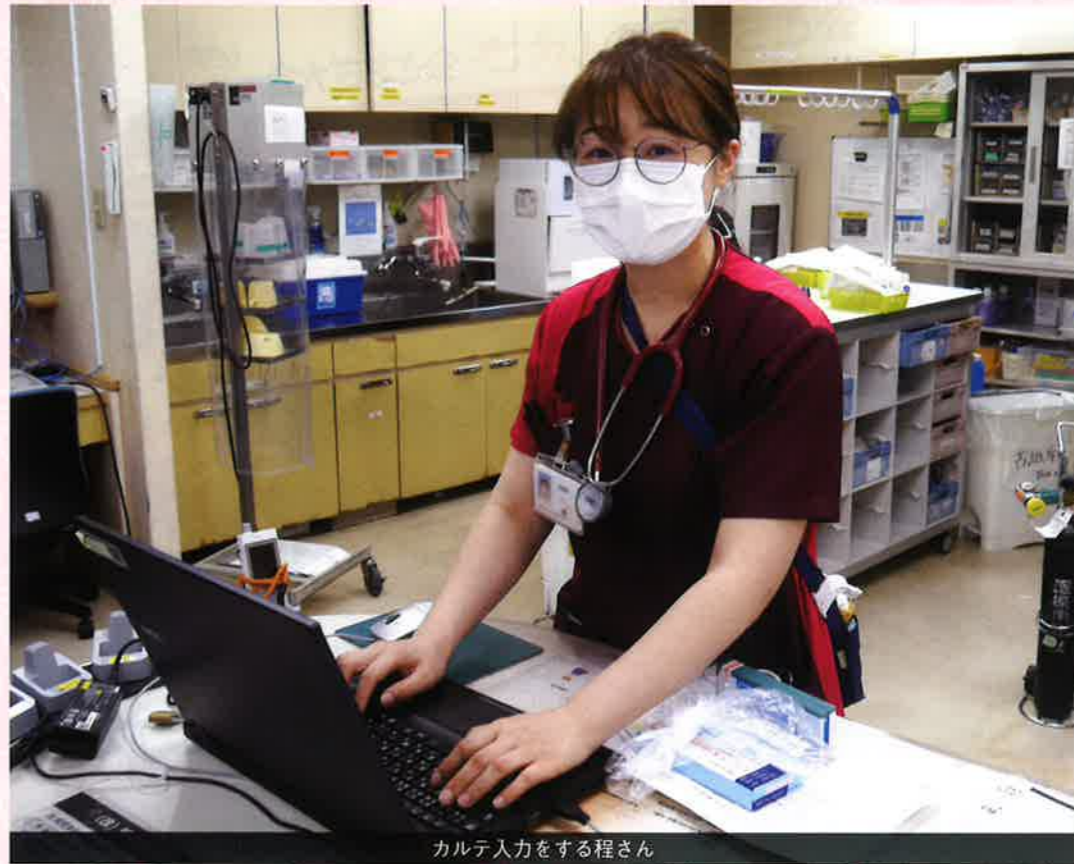


ベトナムでは健康診断の受診率の低さが課題とのことで、視察団は特に、健康診断の仕組みに非常に興味を持たれ、活発に質疑応答しました。遠隔医療で用いる医療関係者間コミュニケーションアプリJoinを用いて、MRI画像なども見ていただきました。アプリの運用方法や個人情報保護・セキュリティについても関心が高かったです。
(済生記者 小池直人)



**私たちが架け橋になりたい
中国出身の看護師・程さんと楊さんが活躍**

福岡総合病院



カルテ入力をする程さん

福岡総合病院では、中国語で患者さんのケアや家族への説明ができる中国出身の二人の看護師が活躍しています。
整形外科病棟の程さんは2014年に来日し、熊本のリハビリ病院を3年経験後、急性期で働いたと当院に転職。旅行中のけがで入院した中国人観光客から、「程さんが言葉の壁や不安を解消してくれた」「丁寧な対応で治療内容を正しく理解できた」とお礼の言葉が多数寄せられています。
救命救急センター所属の楊さんは入社2年目。幼い頃から日本のアニメが大



点滴を調整する楊さん

好きで、いつか日本で働きたいと夢を描き、中国の大学を卒業後、日本の看護大学に進学して看護師免許を取得しました。
二人とも勤勉で日本語も流暢ですが、専門用語が飛び交う医療現場で言葉の壁は大きく、内線電話が聞き取れず戸惑うといった経験もしています。それでも将来は、「認定看護師などの専門資格取得を目指したい」「渡航受診者の受け入れ体制などを評価するJIH（ジャパンインターナショナルホスピタルズ）が推奨する当院で、日本と中国の病院をつなぐ架け橋になりたい」と語ってくれました。

（済生記者 富永朋美）

〈兵庫〉ありのあんしん

すこやかセンター

認知症予防が課題と再確認

ありのあんしんすこやかセンターは11月13日、民生児童委員・警察・コープ・区保健福祉課など地域の健康・福祉スタッフ27人と地域ケア会議を開催。各自が活動報告し共通課題を見つけ、「こんなサービスあったらいいな」を話し合いました。

活動報告の中で、認知症で買い物難民が増えている、コロナで集える場所が減った、認知症高齢者が事故・犯罪に巻き込まれやすいなどの課題が明らかにになりました。その後のグループワークで、日頃からの関係作りでは「ゆるやかな見守り」と「しっかりとした見守り」を使い分



けることや、サークルや集いの場があればつながりやすく認知症予防になるといった意見が出ました。
2年ぶりの開催で、共通課題は「認知症予防」と確認でき、集いの場の重要性や新しい集いの場の必要性を共有できました。（地域支え合い推進員 山下芳樹）

〈埼玉〉加須病院

**医師・看護師が走って支援！
加須こいのぼりマラソン**

12月4日の第27回加須こいのぼりマラソン大会に、加須病院から12人が初参加しました。参加者と一緒にとって不測の事態に対応するメディカルランナー7人（医師3人・看護師4人）と、一般ランナーの5人。メディカルランナーの5人。メディカルランナーの5人。メディカルランナーの5人。

12月4日の第27回加須こいのぼりマラソン大会に、加須病院から12人が初参加しました。参加者と一緒にとって不測の事態に対応するメディカルランナー7人（医師3人・看護師4人）と、一般ランナーの5人。メディカルランナーの5人。メディカルランナーの5人。メディカルランナーの5人。



走りました。
おそろいのTシャツで5キロメートル・10キロメートル・ハーフマラソンを走った当院職員は、「楽しかった」「完走できた！」「記録が伸びた」と笑顔。最後にみんなで、加須市の角田守良市長、加須市医師会の福島祐一医師会長と一緒に記念撮影しました。
（済生記者 蓬田絵里子）

〈滋賀〉老健ケアポート栗東
通所リハビリで火災訓練

通所リハビリテーションで1月27日、日中の火災を想定した避難訓練を行ない、当日の利用者さん23人と全職員17人が参加しました。

訓練と分かっているにもかかわらず、大きなサイレンが鳴り響くと緊張します。焦る気持ちを抑えつつ、冷静にみなさんを安全・迅速に避難誘導する難しさを実感。訓練を講評いただいた委託警備会社からは「とてもスムーズに避難誘導ができていた」と褒めていただきましたが、反省会ではまだまだ改善の余地があると職員一同で再確認しました。この



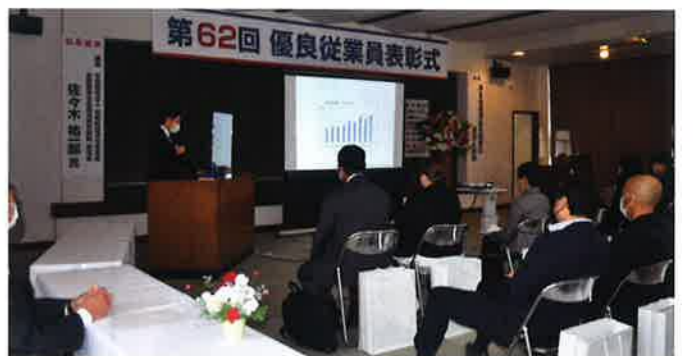
反省を踏まえ、回を重ね精度を上げていきます。
（介護福祉士 田中真由美）

〈鳥取〉境港総合病院

佐々木病院院長が
商工会議所で講演

境港商工会議所で1月23日に第62回商工会議所優良従業員表彰式が行なわれ、佐々木祐一郎病院院長が「済生会境港総合病院の現在と未来」のテーマで記念講演をしました。

佐々木病院院長は①コロナ禍で夜間・休日問わず多くの入院患者を受け入れている当院の現状②超高齢社会が訪れる2025年問題を見据えた中での鳥取大学附属病院などの医療連携の重要性③新病院建設に向けた具体的な取り組み――



について語りました。

伊達健太郎市長も臨席した表彰式の出席者が熱心に耳を傾けました。
（済生記者 坂本佑太）

〈山形〉特養ながまち荘
クリスマス何色がいいべ？

師走に入ったながまち荘では、利用者さんとクリスマス会の準備を始めました。

まずは壁に貼り出す装飾づくり。牛乳パックを文字の形に切り抜いて好きな絵の具で塗って



いきます。「何色がいいべ？」この色は暗いな」と、各自が選んだこだわりの色を塗る達成感を手が不自由な人もみんな味わいました。

壁への貼り出し作業も職員と共同作業で行ないます。「そこに貼ったらいんじゃない？」

「右に傾いているよ、もつと上げて」と助け合いながら無事終了。山形は雪が降り日に日に寒さが増していますが、手づくりの装飾で心も体も温まるようなクリスマス会ができました。
（介護職員 佐藤郁恵）

山形済生病院

療養環境向上に配慮した
二つのセンターを開設

山形済生病院は11月26日、新規開設した人工関節センターとリニューアルオープンした周産期センターの内覧会を実施。地域の医療関係者や報道関係者が多数来院し、テレビや新聞で報道されました。

人工関節センターは既存病棟を改修した人工関節対応の専用病棟です。病棟内にリハビリルームを置き、医療・看護・リハビリのトータルケアが可能。車いす対応トイレの増設や特別室

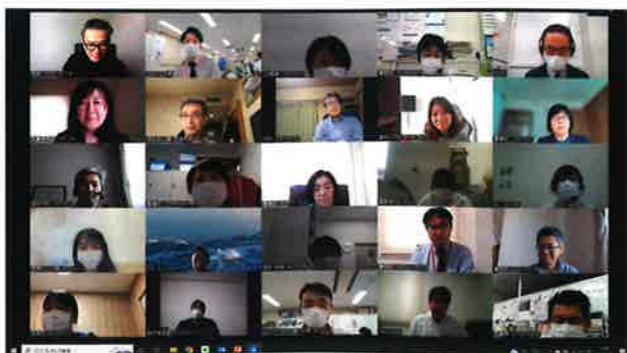


3215年後のあるべき姿とは
2人で議論白熱

小樽病院は12月10日にオンライン幹部研修会を開催し、和田卓郎院長をはじめ32人が参加しました。

当院は2022年、日本生産性本部の経営デザイン認証を受審。その中で「組織のありたい姿」や「変革課題」を「これからの経営設計図」に描きました。今回はそのフォーマットを活用し、15年後の当院のあるべき姿を検討しました。

設計図は①今の当院を形作る



ている過去の出来事②現在の当院の強み③今後10～15年の間に起こる環境変化④15年後の当院のあるべき姿⑤あるべき姿の実現に向け取り組まなければならない事柄を確認する――の5項目で構成。これを半日かけてグループで議論してまとめ、個別に発表しました。

どのグループも、びっくりするほどの熱量で意見交換し、バラエティに富んだ発表が行なわれました。今回の発表内容は、次年度の当院の行動計画に盛り込んでいく予定です。

（済生記者 松尾覚志）



熊本福祉センター

送別のご汁会

当センターの済生会グループホーム事業所では、11月末で退職する世話人の送別会もかねて、恒例行事のご汁会を11月23日に行ないました。利用者さん30人と職員・世話人12人が参加したにぎやかな会になりました。



だご汁は熊本の郷土料理で、利用者さんが楽しみにしている恒例行事の一つ。だご汁にはグループホームの庭で採れた野菜を使用し、おにぎり・サラダと一緒に数人の世話人と職員で協力して朝早くから調理しました。

退職する世話人は、9年間も利用者さんの食事や身のまわりの世話をしていた人。普段から元気な人ですが、利用者さんが感謝の手紙を読み上げると、感動して涙を流しました。最後はだご汁をみんなで一緒に食べながら、思い出話に花を咲かせ楽しく過ごしました。

(支援員 山下賢二)

〈神奈川〉東神奈川
リハビリテーション病院
メリークリスマス

東神奈川リハビリテーション病院の総合受付前に11月下旬恒例のクリスマスツリーが現れました。今年も入院患者さん、外来患者さんにクリスマス気分をたっぷり味わってほしいという気持ちを含めて、医事課職員2人で飾りつけたものです。当院ではクリスマスツリー以外にも、3月はひな人形を、5



月は兜などを飾っています。
(済生記者 佐藤貴啓)

〈山口〉豊浦病院
3年ぶりの合同症例検討会

コロナ禍で自粛していた下関市医師会豊浦班・済生会豊浦病院合同症例検討会が11月24日、3年ぶりに開催されました。一般演題8題のほか、山口大学医学部附属病院の鶴田良介副院長(救急・総合診療医学講座教授)による特別講演「コロナ禍で見えてきた日本の医療」がありました。今後の新型コロナウイルス対策について見聞を深めること



がで、新たなステージに向けて病院一丸で取り組む覚悟が高まりました。
医師会や当院の医師だけでなく、院内各部署から多数のスタッフも参加し、活発な討論も行なわれました。
(地域医療支援(PFM) センター長 岡田 理)

「リサコミュ」の輪、広がっています

〈大阪〉吹田病院

吹田病院ではいま、職員の提案で始まった「リサコミュ(リサイクル de コミュニケーション)」の輪が広がっています。自宅が使わなくなったものを、いま必要な人へ譲り渡す「リユ



新しいコミュニケーション、リサコミュ!!!
つなげよう!
モノを通じて人と人がつながり
所有者が変わるリサイクル
必要なモノを今、必要な人へ!
ご自宅に眠っている
使わなくなったモノ、ありませんか?
院内でGOALS(SDGs)の
取り組みをはじめます!
地球資源を無駄にしない
コミュニケーションをはじめよう!

立——の流れです。実際に出品した職員は「普段あまり話す機会のない他部門の職員が、本を受け取りに来てくれてうれしかった」「廊下ですれ違う際、会話のきっかけになった」と好評。早くも新しいコミュニケーションの輪が広がりに始めています。



入居者さんのヘアカットなどでお世話になっている長野県美容業生活衛生同業組合佐久支部から12月12日、タオル500枚を寄付していただきました。身体機能低下や認知症などで外出困難となり、散髪にも行けない入居者さんに

(済生記者 山浦裕子)

topics



〈岩手〉北上済生会病院 宅建協会北上支部から 車いす5台いただく

57社が加盟する岩手県宅地建

アンケートでは、「相手に対する自身の振る舞いを振り返ることができた」「機内の事例の話に説得力があった」などの感想がありました。職員一人ひとりが接遇の重要性を理解し、改めて意識するきっかけとなりました。

（済生記者 川原彩花）

境港消防署と3年ぶりの 救急搬送症例検討会

〈鳥取〉境港総合病院

境港総合病院は境港消防署との救急搬送症例検討会を11月29日に、ハイブリッド形式で3年ぶりに開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大で定期

（済生記者 掛川千恵子）

境港総合病院は境港消防署との救急搬送症例検討会を11月29日に、ハイブリッド形式で3年ぶりに開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大で定期



35周年を記念して 笑顔あふれる運動会

〈静岡〉特養小鹿苑

小鹿苑は開苑35周年を記念して、10月23日に運動会を開催しました。

利用者さんと職員があんず（赤組）・すずらん（緑組）・みずき（青組）の3チームに分かれた対抗戦で、ペットボトル倒し・玉送り・玉入れ・職員による綱引きの4種目で競いました。各競技ともとても盛り上がり、利用者さんは普段めつたに出さないような大きな声で応援しました。

優勝はあんずチーム。利用者さん代表に賞状を贈ると大きな拍手が起こり、メンバーの利用者さんも職員も笑顔が広がりました。「次はいつやるの？」と早くも次回開催が待ちきれない利用者さんもいて、来年はもっとみなさんの笑顔あふれる運動会にしたいと思いました。

（済生記者 平原 聡）

JALのおもてなしを学ぶ 日本航空の客室乗務員に接遇

〈栃木〉宇都宮病院

日本航空の客室乗務員に接遇

を学ぶ事務職員向け研修を11月16日に開催し、約100人が聴講しました。講師は、日本航空のチーフキヤビンアテンダント・半田友美さん。JALの接遇・態度の知識やノウハウを学び、患者満足度向上につなげることが目的



半田さんは「おもてなしの心の実践」をテーマに、客室乗務員の経験談を交えマナーやコミュニケーションのポイントを解説。多くの質疑応答が行なわれ、関心の高さがうかがえました。

です。

れ、画像診断科の枚田敏幸技師長代行（診療放射線技師）が瑞宝双光章を受章しました。瑞宝章は「国及び地方公共団体の公務」または「公共的な業務」に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた人に与えられます。

枚田さんは「滋賀県の診療放射線技師会を通じた被ばくに関



開催が困難になっていた中、第7波が落ち着いたタイミングでようやく再開にこぎ着けました。この日は救急隊から活動内容が発表され、質疑応答と意見交換なども行ないました。

今後も救急隊との顔の見える関係強化に努め、協力し合い地域医療を守っていきます。

（済生記者 坂本佑太）

枚田技師長代行に 秋の叙勲で瑞宝双光章

滋賀県病院

秋の叙勲が11月3日に発令さ



する啓発活動や放射線技術向上の取り組みが、保健衛生の向上に寄与したとして受章につながりました。協力いただいた滋賀県病院と同僚のみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです」と、受章の思いを語りました。

（広報企画室 森 怜子）

〈山口〉豊浦病院

**村上前看護部長が
秋の叙勲で瑞宝双光章**

11月3日に発令された秋の叙勲で、当院OGの村上道子前看護部長が受章しました。山口県関係の受勲者は各界で功労のあった73人で、うち女性は6人でした。

村上前看護部長が受章したのは瑞宝双光章。公共の業務などに長年従事した人に授与される勲章の一つで、42年余の長きにわたり地域の周産期医療に貢献した功績が認められました。

豊浦病院からもお祝いの花と



萩ガラスの記念品をお贈りする
と、「職場の仲間の支えや、家族の協力のおかげです」と喜びのコメントをいただきました。

村上前看護部長、このたびは栄えある受章おめでとうございます。地域医療・周産期医療への熱い思いを引き継いでいけるよう職員一同尽力していきます。

(済生記者 西田千鶴)

**静岡済生会総合病院
シニア世代向けイベントで
健診の大切さをアピール**

シニア世代の悩みを一度にまとめて相談できるシルバライ

フエアが11月28・29日に静岡市内で開催され、当院健康管理センターの医師・看護師・管理栄養士らが参加しました。

当院は身長・体重・血圧などの無料測定と、医師・管理栄養士による無料健康相談会を実施するブースを出展。健診結果を持参して相談に訪れた人や、無料測定を受けて「高校時代から身長が5センチも縮んだ」と驚く女性などがいました。

あいにくの雨模様で来場者は少なめでしたが、年一回健診を受けるよう啓蒙できたのが収穫です。健康管理センターとして

「未達成ゼロ」でJCIの認証を更新

熊本病院

当院は11月23日、国際的な医療機能評価機構JCIの認証を更新しました。2013年に西日本の病院で初受賞して以来、3年ごとに更新しています。審査期間は同14～18日の5日

は院外イベントに初めて参加し、地域に発信する第一歩となりました。

(健康管理センター 木村葉子)

間。コロナ禍のため、審査員3人のうち来院したのは1人で、残り2人はバンコク・上海からリモートで審査するハイブリッド・サーベイ形式でした。

事前準備で院内勉強会を開催

滋賀県病院

**花折断層帯で震度7の想定
院内災害訓練を実施**

滋賀県病院は11月12日、災害拠点病院に年一回以上義務付けられている院内災害訓練を行ないました。参加者は院内DMAT隊員と災害対策委員、各病棟・部署、ドクターヘリ運航管理者の54人で、今回は院内災害対策本部とドクターヘリ本部の運営訓練を実施しました。

復に努めました。

今回の訓練を踏まえ、災害マニュアルの改訂やドクターヘリ本部マニュアルの構築、機材整備などを行なう予定です。コロナ終息後には多数の傷病者受け入れも含めた災害訓練の実施も検討しています。

(災害対策委員会 今安弘樹)



(済生記者 東 賢剛)

当院とは琵琶湖を挟んだ対岸の、滋賀県高島市から京都府宇治市に至る花折断層帯の中南部を震源とする震度7の地震発生を想定。さまざまな情報を収集・処理し、ドクターヘリへの活動指示や病院機能の維持・回



岡山済生会総合病院
腹腔鏡の特技を競う

岡山済生会総合病院は11月11日、ジョンソン・エンド・ジョンソン社との共催で腹腔鏡下トローニングを行いました。竹原裕子外科医長が司会を務め、はじめに内視鏡技術認定医を今年度取得した栗田和也外科医長が縫合の基本をレクチャー。その上「Surgical Battle SASUKE」と称した種目別タムトリアルを実施しました。ドライラボ（手術手技の練習のために用いる樹脂やフィルム



でできた模型）を縫合したり、折り紙を四つ折りにして貯金箱に入れたりする速さを競います。

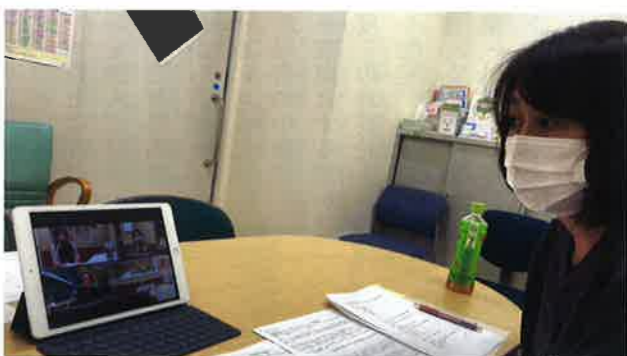
初期研修医7人は3種目、外科専攻医の3人は4種目にチャレンジ。真剣勝負の中で、指先の感覚を研ぎ澄まして挑む集中力は圧巻でした。

結果は、竹政瑛喜初期研修医が優勝し「指導医の先生にじっくり教わることができて楽しかった」と笑顔で語りました。（済生記者 高畑貴子）

〈栃木〉宇都宮病院

ラジオで性暴力被害者に「二人じゃない」と呼びかけ

当院のMSW稲見一美地域連携課長と大塚美幸係長が11月22日、宇都宮コミュニティFMミヤラジで、性暴力被害者サポートセンター「とちエール」の事業内容や性暴力被害の実際、支援の流れを話しました。出演したのは「みんながけつぶちラジオ」。人生の見えない崖っぷちの存在とともに、「崖から落ちて大丈夫だよ」と支える「お助け人」の活動をリアルに伝える番組です。この中で大塚係長は「あなた



は一人ではない。あなたの声を聞いてくれる場所があるので思い切って相談してほしい。周りに気になる人がいたら声をかけてほしい」と呼びかけました。稲見課長も「被害者の支援には、地域の関係機関との連携が必要不可欠。みんなで地域力を高めていきましょう」と訴えました。（地域連携課 秋山綾香）

〈鳥取〉境港総合病院

美保空港訓練に参加

令和4年度美保空港航空機事故対策総合訓練が10月27日に実



新型コロナ感染拡大防止のため中止になり、4年ぶりの開催でした。

当院のチームは主に、鳥取県医師会チームと中等傷者救護所で二次トリアージを行ないまし

た。久しぶりの訓練参加で必要な物品の確認、非常時の対応など、日ごろの備えの大切さを改めて実感しました。（総務課課長 磯林幸美世子）

〈佐賀〉老健まつら荘

無病息災、コロナに負けるな 唐津くんちの采配いただく

コロナ禍で中止や規模縮小が続いた唐津くんちが、今年は感染対策ガイドラインの下で通常開催され、町内の青年団から入所者の無病息災の願いを込めた「采配」をいただきました。唐津神社の秋季例大祭で、毎年11月2〜4日にかけて行なわれる唐津くんち。国の重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。施設の開設時から、初日の宵山が始まる前には町内の青年団がまつら荘にやってきます。笛や鐘、太鼓の曳山囃子の演奏と、曳子の「ヨイサー、ヨイサー」の威勢のよい掛け声に、入所者さんも職員もたくさん元気をもらってきました。

今年も曳山囃子こそありませんでしたが、入所者さんの無病息災と「コロナに負けるな！」



の願いを込めて贈っていただいた采配を、施設の宝物として飾っています。（済生記者 小峰真理子）

〈滋賀〉特養淡海荘

厚労大臣から表彰受ける 統計調査への対応が評価

淡海荘は11月22日、滋賀県庁で行なわれた令和4年度統計功績者表彰伝達式で、厚生労働大臣から表彰を受けました。

淡海荘では2021年1月から、令和3年度の厚生労働統



計調査の指定事業所として、労働者数の増減や賃金および勤怠状況を毎月報告しており、その対応が評価されたものです。これらのデータは、さまざまな分野で利用される重要な指標となる毎月勤労統計調査に用いられます。筆者は、既存の勤怠・給与システムから、この調査報告内容に合う出力パターンを組み立てました。そのため毎月の業務に新たな負担を生じさせずに、正確かつ速やかに報告し続けることが可能になりました。今後も施設の業務改善などを積極的に努めていきます。（管理課 福島克仁）

topics



し切って疲れたのか、戻ってすぐに昼寝しました。
施設で修練した2年分の成果を發揮し、充実した1日となりました。

(済生記者 小林慈備)

骨盤臓器脱手術をダビンチで

〔三重〕松阪総合病院

当院は2022年8月から、女性泌尿器の「骨盤臓器脱(膈から骨盤内の臓器が脱出する疾患)」手術で、ロボット支援仙骨腫固定術(Robot-assisted sacrocolpopexy: RASC)を開始しています。

手術支援ロボット da Vinciの導入で可能になったもの。従来の腹腔鏡下仙骨腫固定術(LSC)に比べ、RASCでは高画質な3D画像によるスムーズな手術操作で、より安全か

つ確実な手術が可能。導入後2カ月で4人にRASCを実施し、いずれも合併症なく安全に遂行できています。

当院泌尿器科は、女性泌尿器疾患の診断、薬などの保存的治療、尿失禁や骨盤臓器脱に対する手術療法など、女性の排尿症状に関する診療を積極的にこなしている三重県内でも数少ない診療科の一つ。お困りの人はぜひご相談ください。

(泌尿器科 吉尾裕子)



今年も車いすありがとう

〔神奈川県〕横浜市南部病院

横浜港南台ロータリークラブから12月2日に、車いす4台を寄贈いただきました。

同クラブは定期的に、チャリティーバザーや、大相撲の力士がつくったちゃんこを販売する「ちゃんこチャリティー」を実施。その収益の一部を当院への車いす寄贈にあてています。

この活動は2012年から始まり、寄贈いただいた車いすは今回で累計51台となりました。



車いすには、治療中の患者さんを使用する点滴棒や酸素ボンベ

〔東京〕中央病院

「新しい病院のカタチ」虹のアート展

患者サービス委員会主催の虹のアート展を12月2日から3週間、外来棟1階ホスピタルス



創作が大好きで豊かな表現力を持つ、障害のある作家の作品を「Christmas time」サンタの贈り物」というテーマで展示しました。

どれもユニークで、観る者にパワーを感じさせる作品がずらり。訪れた人からは「すてきな作品ですね」「発想が素晴らしいですね」と、うれしい感想をたくさんいただきました。

虹のアート展は、中央病院が提案する「新しい病院のカタチ」を体現する活動の一つで、今後地域で生活するだれもが足を運びたくなる機会を創出する。当院のこの方針は、済生会が目指す「インクルーシブな社会の創造」と重なります。

(済生記者 佐藤弘恵)

〔奈良〕御所病院

今年度採用者の消防訓練

御所病院は12月8日、今年度採用職員を対象にした消防訓練を会議室と駐車場で行ない、看護師・調理師・事務職員など7人が参加しました。

参加者は、非常ベルを鳴らすなど火災発生時の初期対応や消



火器使用上の注意などの講義を受けた後、駐車場へ移動し、消火器による消火体験に挑戦しました。

特に空気が乾燥するいまの時期は、日頃から火の用心を心がけ火事を起こさないことが大切。万一、火災が発生してしまった場合も、この日教わった初期消火活動が被害を最小限にします。新人職員にとって今回の消防訓練は貴重な体験となりました。

(済生記者 桑原侑希)

障害者スポーツ大会で2年分の成果を発揮

静岡県医療福祉センター 成人部

第23回障害者スポーツ大会「わかふじスポーツ大会」が11月27日に、近隣の草薙総合運動場で2年ぶりに開催され、フライングディスク競技に利用者さん4人が参加しました。

ディスクを3メートル先の的に10投し、いくつ入るかを競うこの競技。Aさんは6投成功し「遠方の友人によい知らせができるよ」と喜びました。

4投成功のBさんは「自己新記録が出た!」と涙。Cさんは成功なしてしたが、施設に戻ると「2023年は1回は成功したい」と目標を立てて筋トレを開始。Dさんは力を出

静岡済生会総合病院
栄養管理科の内田さんが
Medical Staff Awardを受賞

神戸市で10月下旬に開催された第60回日本癌治療学会学術集会で、栄養管理科の内田理恵さん



さんが「Medical Staff Award」を受賞しました。

受賞した演題は「大腸がん手術後患者に対する入院中の栄養食事指導の導入」。中村勇人外科医長と認定看護師室の朝日恵美師長（がん化学療法認定看護師）との共同研究です。

内田さんは、

中村医長の発案で2020年から、大腸がん術後患者さんの退院後初回外来時に栄養食指導を開始。その中で、患者さんから「入院中に聞けたらもつとよかった」と聞いたのを契機に、昨年4月から大腸がんクリニカルパスに栄養指導を新設し、入院中の介入に修正。

「食生活の注意や工夫を入院中に知ることができ、退院後安心して過ごせた」と患者さんに好評です。「システムはシンプルに、そこで捻出できた時間を患者さんのために使う」という中村医長の思いが、チームの推進力になっていると感じました。

（済生記者 酒井あい）



聖火を持った入居者さんの開会宣言で開会。足上げ競技では、「まだできますよ」と笑顔で長時間の挑戦が繰り広げられました。

ひもの先の人形を手練り寄せる棒巻き競争では、車椅子の入

居者さんも活躍しました。

「参加できて楽しかった」と入居者さん。健康の維持・増進のためにも、楽しみながら運動できる機会を設けていきます。

（ユニトリリーダー 高木政幸）

〈大阪〉吹田特養高寿園
みんなで菜園づくり

高寿園では入居者さんと一緒に、菜園づくりから始める食支援活動を行なっています。先日はサツマイモを掘り出してスイートポテトをつくりました。

管理栄養士を中心に、まずは入居者さんのニーズを引き出し、土づくり・水やり・収穫・

調理などの工程に参加してもらうようにプランニング。雨にも負けず風にも負けず、入居者さんとともに活動し野菜の成長を見守りました。機能訓練指導員も参画し、菜園までの道のりを歩行訓練に有効活用して、生活リハビリにもつなげていきます。

収穫作業には多くの利用者さんが参加し、自分たちで育てたサツマイモの出来栄えにご満悦。

みんなで調理してスイートポテトに大変身させ、おやつでいただきます。高齢者にとって食は生活の中の楽しみの一つ。みなさんのニーズに応える取り組みを一丸で続けていきます。

（済生記者 守安 誠）

文化祭で地域と交流

鹿児島病院

鹿児島病院は11月27日に松原小学校体育館で開かれた「松原地域文化祭」（主催：松原地域コミュニティ協議会）に参加し、職員10人が血圧測定のほかサルコペニアや手洗いのチェック、医師や管理栄養士による個



別相談を実施しました。

意外だったのは、血圧測定に児童の行列ができたこと。手洗いチェックコーナーでは、洗い残しを確認し合う微笑ましい親子の姿が見られ、サルコペニアチェックでは80代男性が「結果が怖くてやりたくなかったが、結果に安心」と握力測定・立ち上がりテストなどの数値に満足した笑顔を見せてくれました。

季節外れの汗ばむ陽気の中、175人が来場。久しぶりのふれあいに癒やされた一日でした。今後も地域の健康に寄与できるよう、感染防止対策を図りながらさまざまな活動を実施していきます。

（済生記者 竹中康代）

発表会は大成功！

はやぶさ保育園では11月10日にあぼろ（3歳児24人）、17日にべがさす（4歳児24人）の発表会を開催しました。

あぼろは、子どもたちが大好きな「ねこのピート」の絵本を題材に、ダンス・スポーツ・クリエイターの3チームに分かれて発表。スポーツチームは、手押し車やでんぐり返しを披露。

クリエーターチームは、透明な水の色を変化させたり、筒から布を出したりするマジックで会場を盛り上げました。

べがさすは、合奏・ダンス・特技を披露。合奏では、各自が好きな楽器を選び、歌に合わせて奏でました。ダンスは2曲で集団で表現するフォーメーション移動にも挑戦！かわいさもかつこよさも存分に発揮してくれました。

この一年で、さらにたくましく成長した子どもたちの姿が見られ、会場全体が感動に包まれたすてきな発表会でした。

（済生記者 黒田真美）



〔鳥取〕 境港総合病院
NHKテレビに診察風景

11月19日にNHKのEテレで放映された「TVシンポジウム『心不全に負けない生活術』」で、境港市の中核病院として当院が紹介されました。

この番組は、心不全の管理で欠かせない薬物治療や低栄養対策、自宅でできる運動など、心不全に負けないための生活術を専門家とともに考えるもの。

この中で、当院の田中宏明統



括内科部長が心不全の患者さんを診察する場面が映り、心不全患者さんの状況を問うインタビューにも答えました。

（済生記者 坂本佑太）

〔栃木〕 宇都宮病院
性暴力被害者支援の実際
警察学校で20人に講義

当院の大塚美幸係長（MSW）と、栃木性暴力被害者サポートセンター「とちエール」専任の高木茜相談員が10月19日、栃木県警察学校で警察官20人に講義を行いました。栃木県警は性犯罪事件の捜査能力向上のため教養課程で「性犯罪捜査専科」を実施していて、その一環で依頼されました。

講義では、とちエールの事業のほか、性暴力被害者支援の実際や警察との連携について事例を通して紹介。「被害者に寄り添った捜査が行なえるよう今後も学んでいきたい」という受講者に、講師の大塚係長は「ぜひ私たちの声や学びを現場で生かしてほしい」と述べました。

とちエールは性暴力被害者のワンストップ支援センターとして、今後も警察など関係機関と



滋賀県病院
緩和ケア研修会

滋賀県病院は11月23日、当院などでしこホールで滋賀県緩和ケア研修会を開催し、当院職員と県内医療従事者の計14人が受講しました。

この研修会は、がん診療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することが目的。こ



の日は、市立大津市民病院と京都府立医科大学から講師を招き、



ロールプレイやグループワークで活発に意見交換しました。

本会を主催した緩和ケア推進委員会責任者で、疼痛（ペインクリニック）・緩和ケア科の権哲部長は「緩和ケアはがん診療において特に重要。まだ研修を受けていない人はぜひ受講し、患者さんが安心して治療を受けられる環境作りにつなげてほしい」と語りました。

（総務課 井上友見）

〔大阪〕 中津病院
大興奮の
ロボット手術体験

中津病院は11月22日、手術支援ロボット da Vinci のメーカー・インテュイティブサージカル社の新型実機操作体験イベントを院内で行ない、約150人が参加しました。

今回は医師以外の医療従事者が、手術支援ロボットを実際に触れて知ることでも目的で、医師以外に看護師・臨床工学技師・薬剤師・栄養士・事務職員などの多職種が参加しました。常に誰かが操作している状態が続き、時間帯によっては行列ができるほど。小さな輪を突起物に掛け

る操作体験に臨んだ職員は、「ロボット手術でこんな操作をしているなんて、医師ってすごい」「離れたところから操作しているとは思えない」「楽しい！でも、実際の手術では緊張するんだろうな」などと、興奮気味に感想を述べました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

京都済生会病院
京都府保健医療
功労者等表彰

11月14日に京都市で行なわれた令和4年度京都府保健医療功労者等表彰式で当院が団体表彰



され、西脇隆俊京都府知事（左）から吉田憲正院長に表彰状が授与されました。賞は「保健医療、救急医療及び看護業務に関し、その功績が特に顕著である個人又は団体を顕彰する」ものです。

京都市北区で1929年に開設した当院は、開設から数えて93年間、当地・長岡京市に移転してからも39年間、地域医療に貢献すべく職員一丸で取り組んできました。今回の表彰を励みに、これからも地域とつながりながら、暮らしに寄り添う病院としてよりよいまちづくりへの貢献を続けていきます。

（企画広報室長 松岡志穂）

topics



〈東京〉中央病院附属乳児院 何事も経験が大事 ドールさんありがとう

中央病院内に出入りしているドールコーヒーションショップから「福祉への貢献やSDGsの環境で、乳児院の子どもたちにアイスクリームを提供したい」と、昨夏申し入れがありました。

それ以来、毎月2〜3回アイスクリームが届きます。アイスを食べた経験が少ない子は冷たさにビックリしながらも、自分でスプーンを持ってパクパクとおいしそうに口に運びます。

乳児院に入所する子どもたちはどうしても社会経験が少なく、なりがちですが、こうした体験からも豊かな感性が育まれればよいなと思っています。

（済生記者 新井保久）

〈奈良〉中和病院 血液在庫がひっ迫 職員挙げて献血に協力

11月16日の午後、当院に奈良県赤十字血液センターの献血車がやってきました。当院では6月と11月の年2回、職員が献血に協力しています。



静岡県済生会 福祉楽市に 3施設が出展

静岡大丸松坂屋で11月に催された「福祉楽市」に、静岡県済生会が4区画を出展しました。

福祉楽市は、静岡県中部の社会福祉サービス事業所の利用者さんが作った手工芸品・製品などを販売・展示する毎年恒例のイベントです。県済生会は従来、事務局のみがブースを出していましたが、今年は次の3施設も参加しました。

就労継続支援で紙を使用することの多いワーク春日は、封筒を再利用した紙袋やポップアップカードなどを展示・販売。静岡医療福祉センター成人部も利用者さんが制作した陶器の作品を展示・販売しました。静岡市心身障害者ケアセンターは作品展示のみでしたが、来場者にはアイロンビーズや刺し子が好評でした。

他ブースの多種多様な展示内容に驚かされたのですが、静岡県済生会の3施設の魅力をしっかり伝えられることのできた「福祉楽市」でした。

（支部事務局 村上佳代子）



前回より多くの告知ポスターを掲示。当日も開始時と3時間の

今回は、県内の血液使用量が血液センターの計画を大きく上回るほど増加し、通常3日分の在庫が1日分もないという切迫した状況でした。そこで一人でも多くの職員の協力を得ようと



〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院 院内に心肺蘇生法広める 目指すは県の救命率向上

当院の救急連絡会が11月21日に心肺蘇生法の研修・PUSHコースを開催し、職員8人が参加しました。

当院の救急救命士・嶋田勇一さんを講師に2021年5月から定期開催していて、累計受講者は130人。毎回、心停止時には迅速に胸骨圧迫やAEDを行なうことの大切さを伝える映像を視聴後、アニメーションに合わせて心肺蘇生の手順を実践します。

参加者は「繰り返し参加して自信をしっかりとつけた」「胸骨圧迫だけでなく、周囲との連携もすべて非常にためになった」とコメント。

講師の嶋田さんは「日本の心停止の現場は約7割が自宅。もし自分の家族が目の前で倒れたら、迷わず行動できるように備えてもらいたい。最終的な目標は、当院を起点に茨城県の救命率を全国平均以上にすること！」と熱く語ってくれました。

（済生記者 堀越琴美）

福岡総合病院 化粧品のポーラと 共同で がん患者をサポート

実施枠の中間で、2回にわたり院内放送で呼びかけ。中間の放送では、それまでの受付人数も伝えました。

その結果、ここ数年30人前後だった協力が、総受付数45人とコロナ禍以降では最多の数にわずかな実施時間でこれほど多くの職員が関心を持ち協力する姿に「医療」という大きくて強い絆で結ばれているのを感じ胸が熱くなりました。

（総務課 松田みちる）

当院のがん相談支援センターは、「がん共生プログラム」を実践する化粧品のパーラと共同で、2021年からかかりつけがん患者さんにアピアランスケア相談会を実施しています。

アピアランスケアは、抗がん剤などによる外見の変化がもたらすストレスの軽減が目的で、直近の相談会には5人の患者



さんが参加。ポーラのビューティーディレクターによるハンドマッサージとメイクアップレッスン、そして楽しいおしゃべりに、患者さんは自然と笑顔になります。

「楽しく過ごせた」「抗がん剤治療で変色した肌をカバーしてもらいうれしかった」と、参加した患者さんはリラックスした時間を過ごしています。

筆者もスタッフ代表として体験し、プロの技で一変した自分の手やメイクアップに心踊ったのはいうまでもありません（笑）。（経営企画課 木下昌子）

香川県済生会病院

高松市から表彰受ける
周辺道路の清掃・美化で

高松市役所で10月20日、令和4年度高松市環境美化推進運動功労者等表彰式が催され、当院を含む21団体と個人35人が表彰されました。

本表彰は道路・公園など公共の場の清掃や、地域の環境美化



活動を実践する個人・団体が対象。当院は、高松市が市道の清掃・緑化をボランティアでお願いする活動「たかまつマイロード」に2019年度から加入し、病院周辺の清掃を通算13回実施してきました。「たかまつマイロード」は、道路の環境美化だけでなく、道路への愛護意識の高揚を図り、道路利用者のマナー向上の啓発も目的で、市からごみ袋・軍手・火ばさみ・ゼッケンなどが提供されます。

地域貢献の一環で取り組んできた活動が表彰という形につながり、大変うれしいです。

(済生記者 西山汐里)

〈神奈川〉わかくさ保育園
保育園で子育て教室

わかくさ保育園は11月19日、子育て教室「ワクワク！みんなであそぼ！」を開催しました。

講師は、子どもの才能を伸ばす教育メソッド「モンテッソーリ教室」を実践するサロンド・パンビーノの藤崎達宏先生・藤崎理佳先生で、地域と在園する親子8組が参加。わらべ歌に合わせてスキンシップをとるベビーマッサージや、ひもやハンカ



チなど家庭にある身近な物をおもちゃに変身させる遊びなどを教えてもらいました。

マスク時代の今、目を大きく開けて喜びを伝えるなど、目の表情や動きで気持ちを伝える方法も伝授いただき、大変勉強になりました。フリータイムでは、リラックスした様子で講師に質問したり、参加した母親同士で話したりと、和やかな雰囲気でした。たくさん笑顔が見られました。

(済生記者 本倉美穂)

静岡県済生会総合病院
法人初の模擬適時調査

当院講堂で11月18日、全国済



当院で厚生局による適時調査が行なわれたのは2018年が最後なので、近い将来に行なわれるものと予想しています。

当院の医事課は「施設基準要件に関して当院の解釈との相違点や適時調査の対応など、教授

いただいたことを改善につなげ、より精度の高い施設基準管理・運用に努めていきたい」と話しています。

(済生記者 酒井あい)

〈三重〉松阪総合病院
玄関先のおもてなし

11月の暖かな晴れの日、リリーの薬剤師を中心に多職種の有志で集い、花壇に花を植えました。病院の玄関先に花をしつらえることで、来院される人にも少しでも穏やかな気持ちになっていただければと願いをこめて、毎年行なっています。

今回用意した花は、今の時期から楽しめるナデシコ・ビオラ・パンジー・アリッサムと、春に咲くチューリップ。これからどう生い茂りどんな色のバランスで花を咲かせるのかも想定し、配置を工夫し植えました。

患者アンケートでも花壇を褒めたり応援したりするコメントが寄せられていて、励みになっています。日常業務から離れて植物や土に触れる時間は、私たちにとって憩いのひとときともなっています。

(臨床心理士 前田早奈美)

栃木県済生会

歯科医師会とタッグ
全入居者への口腔ケア開始

特養とちの木荘で12月5日から、宇都宮市歯科医師会の協力による口腔衛生管理がスタートしました。導入前の11月には入居者全員に歯科健診を実施し、同意が得られた人から順次開始しています。

導入に際しては、栃木県済生会支部・宇都宮市歯科医師会・とちの木荘で約1年検討。入居定員100人のため、歯科医師会の3歯科医師の歯科医師・歯科衛生士が分担し訪問いただけることとなりました。



とちの木荘の神村恭弘施設長は「要介護高齢者の口腔管理は非常に大切で、入居者さんの満足度向上も期待している」と述べています。協力いただく、しのごき歯科医院の篠崎泰久院長は「口腔内の清掃や処置だけでなく、摂食嚥下障害などによる口腔機能のリハビリテーションも実施していきます」と抱負を語りました。

複数の歯科医師による全入居者対象の口腔ケアは全国でも類を見ないとのこと。とちの木荘の大きな強みになると期待しています。

(支部副参事 上野宏文)

生会事務(部)長会医療政策・医事研究部会の模擬適時調査が行なわれました。これは法人初の取り組み。コロナ禍で保険診療における適時調査が中止されている中、各病院で施設基準が適切に管理されているのかを確認し、参加者が適時調査に関する準備書類などの知識を深めるのが目的です。

topics

〈山口〉豊浦病院

ジャガイモ植えたっけ？

併設のひびき保育園の園児5人が12月8日、敷地内のとよさい農園でジャガイモの収穫体験をしました。
とよさい農園には6月に、園児がサツマイモ・トウモロコシ・スイカ・枝豆の苗を植えました。鹿の食害で全滅……。



園児の悲しい顔は見たくないと、8月の炎天下に事務職員がジャガイモの苗を植え直し、無事収穫にこぎ着けました。

12月にもかかわらずこの日は日中の最高気温が15℃と暖かい絶好の収穫日和で、園児たちも元気いっぱい。畑からは、園児が植えていないジャガイモしか出てきませんが、まったく気にすることもなく一生懸命収穫していました(笑)。

この楽しいイベントが続けられるよう、今年も鹿対策も考えながら何を植えるか作戦を練りたいと思います。
(経営企画室室長 日高滋規)

長崎病院

臨床研修指導医の絆つくる 第48回SWSを大阪で開催

長崎病院は、第48回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ(SWS)を11月26・27日にクロス・ウェーブ梅田で開催しました。

平成18年2月から開催されている本ワークショップですが、今回はチーフタスクフォースに横浜市東部病院の風巻拓医師を迎え、全国の済生会病院から



集まった27人の医師が受講。最初は緊張していた受講者のみなさんも、グループワークを通して打ち解けていきました。講習会はオプザーバーの水戸総合病院・富田林病院の力添えもありスムーズに進行できました。

2日間のプログラムで受講者・スタッフともに、済生会人としての横のつながりも築くことができ、有意義な時間を過ごされました。
(済生記者 平川幸子)

〈愛媛〉西条老健いしつち苑

加藤さんの見事な菊

「近くに見事な菊を見せてくれる家がある」と地域の人から聞き、11月初旬に入所者さん数人と出かけました。

コロナ禍で地域交流も外出支援も減ったいま、「菊を見に行く？」と入所者さんに聞くと、



数人が「はい！」と挙手し、上着とひざ掛けを持って出発！
赤・白・黄色の菊が盛大に咲き誇る庭の主・加藤さんは「育て始めて10年ほど。いつでも誰でも見に来てくれるとうれし



い」と歓迎してくれました。入所者さんは「こんなたくさん菊は珍しい」と大感激。夫が華道教室をしていたのを思い出し、「ああ〜きれいな。主人にも見せたい」と涙ぐむ人もいました。
加藤さんのお言葉に甘えて数日にわたり訪問させていただき、少し遠ざかっていた地域ともつながり、職員も楽しく有意義なひとときとなりました。
(介護係長 奥山博文)

〈兵庫〉特養ふじの里

おいしいお肉が食べたい

入居者さん8人・職員3人で10月26日に、焼肉イベントを実施しました。日頃から「少しでもいいからおいしいお肉が食べたい」という入居者さんの思いに



応えました。

当初は、焼肉の有名店「炭火七りん」に食べに行く予定でしたがコロナ禍で外出を断念。お店の配慮で、ユニットで焼いて食べる計画に変更しました。

テラスで焼いた肉をテーブルに運ぶと、「やっぱりおいしいお肉は塩で食べたいね」「ワサビをつけてもいいしそう」と、入居者さんは次々に口に運びました。お店の話では、このお肉は「県の品評会で優秀賞を取った牛」とのこと。少しでも入居者さんの思いに答えられたかな
(西館 ユニットリーダー 山下七重)



「いのちを救う演習」潜入取材
 当院看護部では定期的にラダ
 研修（実践能力段階別研修）



感謝を伝えました。
 （済生記者 前田明子）



を行なっていて、10月末に潜入取材しました。
 この日のテーマは「臨床における救急医療（急変時の対応）」。
 教育担当看護師が患者に見立てたシミュレーション人形の声や息遣いを追真の演技で演じ、医師役の看護師も医療現場の忙しさをリアルに再現しました。
 実技演習を見て改めて感じたのは「コミュニケーションと情報共有の重要性」。自分が何をしているのかを、しっかり声を出してチームで共有することで、他の人は作業の重複を避けて次の準備に入ることができます。それが患者さんの救命につながる。

院内イベントはコロナ禍の2019年から自粛してきた中で3年ぶりの開催です。「瑠璃色



外来で
 ホスピタルコンサート

滋賀県病院

と、よくわかりました。
 演習後は全員で互いのよい部分を積極的に指摘・共有。それを自身の看護に取り入れていくことで、病院全体の看護の質が底上げするのを実感しました。
 （済生記者 原 衣里奈）

の地球」「アヴェ・マリア」など8曲が披露され、吹き抜ける外来フロア全体に華麗な歌声とピアノの音色が響き渡りました。
 患者さんや地域から訪れた多くのみなさんに「とてもすてきだった」「心が癒やされた」と喜んでいただけました。コロナの感染状況を見ながらですが、今後も心温まる時間を届けるイベントを実施していきます。
 （総務課 奥山晃輔）



飯塚市庁舎がブルーに
 世界糖尿病デーイベント

（福岡）飯塚嘉穂病院

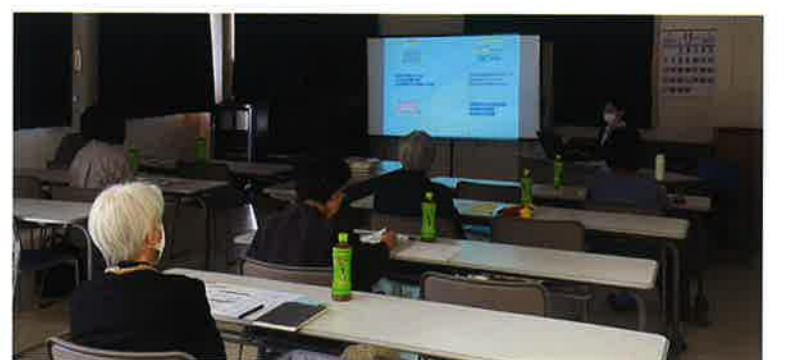
11月14日の世界糖尿病デーにちなみ、同16日に飯塚市本庁舎が糖尿病啓発のシンボルカラーの青にライトアップされました。これは日本糖尿病協会県支部と筑豊糖尿病療養指導士会が主催したもので、当院からは追康博院長、有田好之副院長ら7人が参加しました。

当院のある筑豊地域は、全国的にも糖尿病患者とその予備軍の割合が高い地域です。その中で当院は糖尿病療養指導士23人による患者ケアなど糖尿病診療に注力。全国済生会糖尿病研究会の事務局も務め、一昨年には飯塚市で第27回全国済生会糖尿病セミナーを開催しました。
 これからも地域への糖尿病予防の啓発に努めていきます。
 （済生記者 春口勇介）

（栃木）宇都宮病院
 病院との上手な付き合い方
 家族介護教室で説明

宇都宮病院は11月22日、地域連携課の稲見一美課長（MSW）

と徳田佳織係長が講師を務め、錦地域コミュニティセンターで家族介護教室を開きました。
 まず徳田係長が「病院との上手な付き合い方」のテーマで、病院とクリニックの役割や機能の違いなどを分かりやすく説明。次いで稲見課長が、かかりつけ医を持つことや、急変時の延命治療などを含めて人生の最終段階をどう過ごすのかを考えておくことの大切さを話しました。
 参加者は、「最後まで自分ら



岡山済生会
 ライフケアセンター
 中国地方郵便局長協会から
 福祉車両をいただく

（地域連携課 秋山綾香）

中国地方郵便局長協会から岡山済生会ライフケアセンターにこのたび福祉車両が寄贈され、その贈呈式を11月22日に当センターで行ないました。

同協会の野村和正会長は「祖母が生前、ライフケアセンターでお世話になっており、今回このようなかたちで感謝の気持ちを伝えることができうれいです。施設を利用するみなさまに喜んでいただければと思います」とあいさつしました。
 ホンダフリードのレプリカカーを受け取った前田幸夫センター長は「車がコンパクトなので、送迎する利用者さんの玄関前まで着けられる。車いすも搭載でき、とても便利でありたい。コロナ禍で疲弊気味のわれわれにとっても励みになります」と

静岡市心身障害者
ケアセンター

優良安全運転管理事業所の
表彰を受けました

当事業所は11月24日、静岡県安全運転管理協会から優良安全運転管理事業所の表彰を受けました。県全体で約60事業所が選



ばれ、静岡中央地区支部管内で表彰された4事業所の一つに入りました。
当事業所は5年以上無事故無

違反を継続するとともに、昨年度に3人の職員が優良運転者の個人表彰を受けるなど、日頃の交通安全活動への取り組みが評価されたものです。

安全運転管理者・山口竜矢さんが事業所を代表し、次のように抱負を語りました。

「これからも、より一層安心・安全に利用者さんを送迎したい。それに向けて日々の運転業務を丁寧に行ない、無事故無違反を継続できるように職員一丸で取り組んでいきます」

安全運転管理者・山口竜矢さんが事業所を代表し、次のように抱負を語りました。

(済生記者 岡本竜馬)

〈鳥取〉境港総合病院

76人で440キロ除草
地域のボランティアに感謝

境港市シルバー人材センターと境港市ことぶきクラブ連合会のみなさんが11月19日、ボランティアで当院敷地内の除草作業をしてくださいました。

「診療や健診で日ごろお世話になっていることや、新型コロナウイルス感染症への対応などに感謝の気持ちを表したい」と集まったのは総勢76人。作業で集めた雑草・枯葉の重量は440キロにもなりました。



鳥取県済生会の佐々木真美子支部事務局長は「当院が地域の中核病院として理解され、期待されているためのお力添えと受け止め、これからも地域医療に貢献するため精進していきます」と、みなさんの心のこもつ

たご奉仕にお礼の言葉を述べました。

(済生記者 坂本佑太)

〈兵庫〉特養ふじの里

ハーモニーが聴こえる

コロナ禍で2年ぶりとなる北区ふれあいフェスタ2022障がい者芸術作品展が10月22・23日に開催され、済生会ハーモニー（神戸市重症心身障害者日中活動支援事業）も利用者さんと職員が共同制作した作品を出展しました。

神戸市北区の役所・自立支援協議会・社会福祉協議会などが主催する本作品展には例年、知的障害・発達障害・重度の心身障害などを抱える人などが出展。会場のイオンモール神戸北に、11団体の145作品が展示されました。

済生会ハーモニーの作品は「聴いてーボクたちワタシたちのうた（ハーモニー）。いつかコロナが終息し、みんながマスクを外し大きな声で合唱したいと願いを込めた空き缶コーラス隊です。職員のアイデアと利用者さんの可能性を生かしたコラボ作品は、最多投票数を獲得し



見事入賞しました！

（ハーモニー） サービス管理
責任者 鳥居信彦

〈埼玉〉川口総合病院

座学と筋トレで学ぶ
3年ぶりの糖尿病教室

11月22日に3年ぶりの糖尿病教室を開催しました。コロナ禍のため、当院の通院患者さんに対象を絞って小規模で実施しました。

プログラムは、糖尿病・内分

「看護現場学」を学ぶ
下関総合病院は11月10日、中堅看護師（クリニカルラダーレベルⅢ以上）を対象に、看護現場学サポーターの陣田泰子先生による、看護の本質をより深く探求する経験学習「看護現場学Zoom研修」を行いました。陣田先生には昨年も管理者を対象に研修いただき、受講後に「私の大切にしている看護」というカラフルな概念化シートを作成し、病棟内のカンファレン



泌内科の齋藤利比古部長の講演「糖尿病の現状と合併症について」と、リハビリテーション科の奥村篤史理学療法士の「転倒しない身体づくりーみんなが筋トレをやってみようー」です。齋藤部長の分かりやすいスライドの説明を熱心に聞き、奥村PTが指導する筋トレで一縮に体を動かしたみなさん。「合併症の怖さを知り、より気をつけて生活していこうと思った」「筋肉低下を自覚した。少ない時間でも運動しなきゃ」と意識が変わっていました。

(済生記者 原 衣里奈)

〈山口〉下関総合病院

「看護現場学」を学ぶ

下関総合病院は11月10日、中堅看護師（クリニカルラダーレベルⅢ以上）を対象に、看護現場学サポーターの陣田泰子先生による、看護の本質をより深く探求する経験学習「看護現場学Zoom研修」を行いました。陣田先生には昨年も管理者を対象に研修いただき、受講後に「私の大切にしている看護」というカラフルな概念化シートを作成し、病棟内のカンファレン

〈埼玉〉川口総合病院
ありがとうの救急車

勤労感謝の日を控えた11月22日、なでしこ保育園の子どもたちが病院で働く職員に、「お仕



事いつもありがとう」の気持ちを込めたプレゼントを持って来てくれました。

プレゼントは、ペットボトルのカラフルなキャップでつくった救急車。子どもたちと先生で

何をつくるかを話し合い、1週間かけて完成したアート作品です。

名古屋恵子看護部長が代表して受け取り、「ありがとう。お仕事をこれからも頑張ります！」と笑顔でお礼を伝えると、子どもたちは少し照れながらもとっついてもうれしそうな顔に。

このすてきなプレゼントは職員食堂に掲示。たくさんの職員を癒やしてくれ、食事をさらにおいしくする最高の調味料になっています。

(済生記者 原 衣里奈)

長野保育園
オリジナル楽器も登場
トミーさんのコンサート

鍵盤ハーモニカ奏者のトミーさんが12月2日に来園し、保護者や近所の皆さんも含めた100人以上を前に遊戯室でコンサートを行いました。

鍵盤ハーモニカを中心に、ピアノやフルート、ドラムなどを



さまざまな楽器の生演奏に、子どもたちは興味津々。中でも、トミーさんが開発した木製鍵盤ハーモニカは初めて見聞きする人がほとんどで、深く響き渡る美しい音色に聴き入りました。

映画「となりのトトロ」で有名なエンディングテーマ「となりのトトロ」やオープニングテーマ「さんぽ」では自然に手拍子が始まり、サビを歌い出す園児も。最後はお礼の言葉とともに園児手作りのリースなどをプレゼントしました。

素晴らしいパフォーマンスを見て聴いて感じて、目も耳も心も幸せなコンサートでした。

(済生記者 海野 京)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

公民館講座でPOPづくり

近所の公民館で11月23日に開かれた本のPOPづくり講座「POPは



楽しい！」に子どもも参加しました。POPは商品の魅力を伝える販促広告で、薬局・スーパー・書店などで見かけるアレです。今回は全国の図書館に自作のPOPを送っているインストラクターの片山茂氏に、作り方を教わりました。

私も息子もカエルの本のPOPを作成。子どもよりも私の方が真剣になってしまいました。完成した品がコチラ。なかなかの出来栄じゃないですか？

せっかく教わったことを生かして、次は院内に置いていろいろ

冊子のPOPを手作りしてみたいと密かに考えています。いままではパソコンでデザインしていましたが、手作りだからこそ表現できるよさもあると、改めて感じた貴重な講座でした。

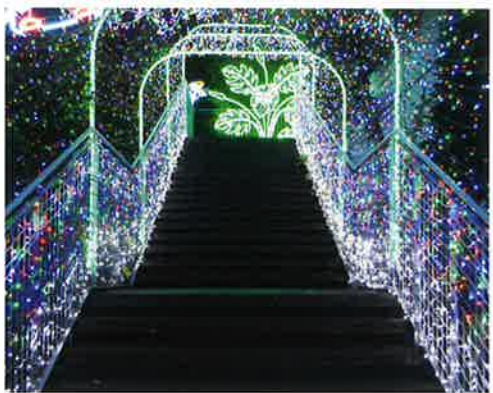
(福岡・飯塚嘉穂病院 済生記者 春口 勇介)

★両方すてきなPOPですね。あたたかな手作りの掲示物が増えたら、貴院の雰囲気が変わると思います。

(デザイン担当 OVO 清水美弥子)

九州初上陸の光の世界

この冬、福岡総合病院が面する天神中央公園を挟んだ向いのイベント施設に、神戸で10年以上親しまれて



いるイルミネーションイベントが九州初上陸しました！ その名も「福岡イルミネーション」。輝く光に誘われるまま、さっそく会場へ――。

夜の厳しい冷え込みを吹き飛ばすほど、イルミネーションの光は明るく輝いています。今にも動き出しそうな恐竜たち、その大きさと迫力に圧倒されます。しばし日常を忘れさせてくれる光の世界がそこには広がっていました。

会場を後にして現実世界に戻った私は、感染対策の配慮を忘れず、充実した冬の時間を過ごしていきたいと思えました。

(福岡総合病院 経営企画課 北富日奈子)

★イルミネーションとってもきれいな！ きつと肉眼で見たらもっときれいなんだろうな。

(メデイカル・リーフ 平山果奈)

忘年会がイチゴに変身

唐津病院はこの冬、佐賀県の特産品を1品ずつ職員に選んでもらい



「コロナ禍で今年も中止になった忘年会の代わりに」と、職員互助会が企画してくれたのです。佐賀牛や唐津バーグ、佐賀県産イチゴなど、佐賀の特産品8品から選べますが、どれもこれもおいしそー！

そのなかの一つ、平川いちご農園のイチゴを選んだスタッフが見せてくれたのが、この写真。大粒のブランドイチゴ「いちごさん」が一つひとつ丁寧に箱詰めされていて「とっても甘くて子どもが大喜びだった」と教えてくれました。

平川いちご農園は「コロナ禍でがんばっている医療従事者に元氣になつてもらいたい」と、一昨年はたくさんイチゴを当院へ寄贈してくれ、昨年はイチゴ狩りにも無料招待してくれた農園です。

今回のプレゼント企画にも快く賛同いただきました。いつもありがと

う)ございます!

(佐賀・唐津病院 済生記者

相島蘭香)

★お子さんにとっては、こんなプレゼントが届いたらうれしいですね。しかし大きい!

(メディカル・リーフ 原澤一也)

23年のありがとう

新しい仲間によろしく

はまな荘は1999年の開設時に導入したリフト付き送迎車を、今回初めて「済生会カーリース制度」で更新しました。

その車両は23年間で約18万キロを走行。夏に新車両を発注した直後、機嫌を損ねたのか猛暑に耐えられなかったのか、エアコンの修理が必要に。そうかと思えば、その後は廃車にされたくなかったのか、最後まで



力を振り絞って「まだまだ走れますよ」と懸命のアピールを続けてくれました。

新しい送迎車には、安全装置やバックモニター、コーナセンサーなどの装備がバッチリ。安全・安心なのはもちろん、乗り心地も大きく改善されて利用者さんに大変喜ばれています。

昨今の世界情勢で、新車の納入にはかなりの時間がかかるため、車検の切れる10月末に間に合うのかやきもきました。が無事期限内に納車。車両選定に携わったデイケアの悦木拓郎主任もほっとしていました。

(広島・老健はまな荘

済生記者 佐藤 聡)

★2代目の送迎車も、初代に負けないくらいたくさんの利用者さんを安全に送り迎えしてほしいですね。

(メディカル・リーフ 原澤一也)

がんばれ大野くん!!

当センターの入所者・大野颯汰くん(高校2年生)が、10月末に栃木県で行なわれた全国障害者スポーツ大会に出場しました。種目は車いすの100メートル走で、練習を重ね万全の準備で当日を迎えました。

ところが本番2時間前、なんと腹痛に襲われるアクシデントが。気力で跳ね返し並んだスタートライン。



ト詰め・箱詰めで連日大忙しです。

一つずつ傷や痛みを確認し、指示通りにネット詰めするのは大変根気のいる作業。普段は職員が利用者さんの製作物を検品する立場ですが、ミカン詰めは利用者さんの独壇場。私たちが手伝ったネットを覗いて「それ腐ってるよ」と指摘されることもしばしば……。だから正直、もうミカンなんて見たくないと思う瞬間もあります。スパーに行くとい「ミカンあるかな」と気になってしまいます。

いまはミニトマットパックのシール貼り作業もしていて、正確でコンスタントに貼り続けられる利用者さん



もうミカンなんて見たくない?

当センターの就労継続支援B型事業・食品部門は、地域の卸売市場から野菜の皮むき・袋詰め作業や果物加工作業を受託しています。なかでも果物加工作業は季節の果物が店頭に並ぶ直前がかき入れ時。冬場は熊本特産の晩白柚やミカン、デコボ



中の「風」のようにこれからも駆け抜けてください。応援しています!

(口福につぼん 吉井省一)

バースデーソングを贈る

11月に誕生日を迎えたAさんにバースデーソングを贈ろうと、併設の湯田温泉病院1階ミニステージで動画を撮影していただきました。

進行性の疾患のあるAさんは訪問看護開始から12年が過ぎ、当ステーションのスタッフ全員がケアに



関わっています。体調があまりよくない中で、Aさんはここ最近は見ることがない最高の笑顔で喜んでくれ、私たちの気持ちは伝わったと思います。

体調のよい時には、おすすめ映像

「スタートダッシュが決まった!」(大野くん)——その勢いで、途中まではトップを快走したのですが、徐々に追い上げられて8人中5位でゴール。でも最後まで力を抜かず、全力で駆け抜けました。

「練習の記録を下回り、さすがに悔しかった」と競技直後は肩を落とした大野くん。いまは気持ちを切り替え、「まずは市内のスポーツ大会で頑張って、予選通過する!」と来年の出場に向け意欲を燃やしています。

(愛知・青い鳥医療療育センター

済生記者 田口幸子)

★颯汰君、頑張ったね。君の名前の

広告索引

- アクサ生命保険(株)
 - 富国生命保険(相)
 - 日本生命保険(相)
 - 第一生命保険(株)
 - 大樹生命保険(株)
 - 明治安田生命保険(相)
- 裏表紙[表紙4]

次号予告

済生 No.1124 [令和5年2月号]

済生会の不易流行論 (173) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 阿川佐和子

口福につぼん (65) 白餅黒餅(三重県伊勢市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

にいつも助けられています。冬の繁忙期はまだ続きますが、励まし合いながら乗り越えていきます。

(熊本福祉センター 支援員

岡村貴子)

★頼もしい利用者さん! おいしいミカンが食べられるのはこうして検品してくれる人がいるからなのです。

ね。(メディカル・リーフ 平山果奈)

障害者スポーツ大会で銅メダル

10月29~31日に栃木県で開かれた



「いちご一会とちぎ大会・第22回全国障害者スポーツ大会」に、当施設の就労継続支援A型で働く加藤兵馬さんが出場。走り幅跳びの部で銅メダルを獲得しました。

think! / sync!



知る・見つける・支える

ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion **シンク!**

はじめまして、シンク!です。

済生会が推進するソーシャルインクルージョンを、
多くの人々に知ってもらうためのウェブメディアができました。

サイト名は「知る・見つける・支える ソーシャルインクルージョン」。
愛称の「シンク!」は、social inclusionから名付けました。
think (思いを巡らせる)、sync (共感する、シンクロする) という意味も込めています。

済生会内外のさまざまな活動の記事を通して、ソーシャルインクルージョンの
実現を目指す人々の思いを知り、共感し、そして仲間になってほしい。

それがシンク!の思いです。

知る・見つける・支える

ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion **シンク!**

<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/>



大会後、当施設の職員にメダルを披露した加藤さんは「緊張したけれど落ち着いて競技に挑むことができた。自己ベストは更新できなかったがきれいに飛ぶことができました」と自信に満ちた様子でうれしそうに話してくれました。

これまでに出場した数々の大会で獲得したメダルは金・銀・銅合わせて10個以上あるとのこと。今後の目標は「全国障害者スポーツ大会で金メダルを取ること。練習も仕事も頑張ります」と力強く答えています。

これからも、職員一同、加藤さんの活躍を応援しています。

(大阪・りんくうワークス
作業指導員 吉田 陽)
★メダル獲得、おめでとうございます。本番で「きれいに飛べたこと」はきっと次の記録につながると思います。(デザイン担当 OVO 大谷信之)



荒川和也医師(右)と消化器内科の築村哲人医師(左)

と消化器内科の築村哲人先生には大変お世話になりました。

内視鏡で8匹摘出したとのこと。あと2匹で釣り仲間です。話すとこの「ツ抜け」だったので、魚ではないので十分な数です。無事、午後からの庄野弘幸院長の取材を予定どおり行なうことができました。

思いがけずAI問診をリアルに操作したことも貴重な体験。とても簡単でした。後日、済生会のグループ保険(医療保障)で治療費の保険金支払請求も済ませました。「入ってよかった。済生会グループ保険」です。

済生記者の船橋麻紀さん、医事室の折田智史さん、取材&治療のサポート、ありがとうございます。

(本部広報室 河内淳史)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで111年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部 東京 支部 40都道府県
病院 81
診療所 19
介護医療院 1
介護老人保健施設 29
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 122
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 63
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 10
合計 403 (数字は令和3年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の59島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万4000人。

済 生

[令和5年1月号]
THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和5年1月10日発行
通巻第1123号 (第99巻第1号)

編集兼
発行人 炭谷 茂
発行所 社会福祉法人 済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人 済生会

済生会グループ保険のご案内

スケールメリットを活かした、
個人保険に比べて
割安な保険料で
大きな死亡保障を!!

グループ保険

〔災害割増特約・子ども特約・
子ども災害割増特約付福祉団体定期保険〕

(本人・配偶者・子ども対象)

診査がなく(告知のみ)
手続きが簡単なおうえ、
剰余金があれば
契約者配当金が戻ります。



① 終身医療保障プラン

〔手術給付特約・手術補完給付特約・
先進医療給付特約(12)・死亡保険金不担
保持約(入院保障保険(終身型 09)用)付
入院保障保険(終身型 09) 60日型〕

② 総合医療あんしんプラン

〔総合医療保険(団体型)〕

(本人・配偶者・子ども対象)

2つの保険より、
選択できます。



第二の人生を
充実させるために
今からご準備を!!

ゆうゆうライフプラン

〔拠出型企業年金保険、
医療給付金付個人定期保険〕

(本人のみ対象)



済生会グループ保険の次回新人募集は、
令和5年3月下旬にご案内予定です。



※このご案内は商品の概要を説明しています。ご契約の際には、「パンフレット」「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご覧ください。

(グループ保険・ゆうゆうライフプラン引受保険会社)

アクサ生命保険株式会社 [事務幹事会社]
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社
第一生命保険株式会社 大樹生命保険株式会社
明治安田生命保険相互会社

(医療保険引受保険会社)

アクサ生命保険株式会社 (終身医療保障プラン)
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社(総合医療あんしんプラン)
法人サービスセンター
電話 0120-563-925
【受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(祝日・12/31～1/3はお取り扱いしておりません)】

(グループ保険・ゆうゆうライフプラン・終身医療保障プラン お問合せ先)

アクサ生命保険株式会社 制度推進部
【照会先】法人ビジネス業務部
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7450

(総合医療あんしんプラン担当営業部)

日本生命保険相互会社 公務第一部
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 電話 03(5533)5086

Form No.0D2313(9.0) AXA-A1-2202-0122/9F7 2022.02.15